

矢作川流域圏懇談会通信

R1 市民部会編 vol.1



発行日：令和元年 8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第4回市民部会を開催しました！

今年度最初の市民部会 WG では、昨年度の活動について振り返りを行い、その後今年度の方針について意見交換を行いました。また、9月8日に開催される矢作川感謝祭に向けて、矢作川流域圏懇談会や矢作川の情報を発信する手法について話し合いを行いました。

日時：令和元年 7月31日（水）14:00～17:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室

参加者：11名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. これまでの市民部会の活動について

昨年度の市民部会では、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つの流域連携テーマについての活動を振り返り、市民が矢作川流域の情報に触れる機会が少ないことが課題として挙がりました。そのため、市民部会メンバーで考えた流域の優れた点や問題点などの意見を地図上に列記し、空間的に情報を把握できる「流域マップ」を作成しました。また、流域マップ上の意見を過去と現在、さらには将来という時間軸に対して、良い点と悪い点という評価を行い、「カテゴリズ表」を作成しました。第3回市民部会では、市民部会（市民会議）の9年間の活動をまとめるとともに、今後の方向性を明確にするために「標語」を作成しました。最後に、平成31（令和元）年度以降の市民部会の目標やWGで取り組みたいことについて意見交換を行いました。

2. 今年度の活動方針について

昨年度のWGでは、「地域部会に横串を通す存在」となり、「市民部会が地域部会合同の勉強会を提案する」ことを目標としたいという意見があがりました。そこで、今回のWGでは「地域部会間で連携して解決したい課題」について市民目線で意見を出し合い、勉強会の内容の検討を行いました。

まずは、「何を勉強会のテーマとして取り上げるべきか」、「そもそも連携して解決するとは何をゴールとしているのか」という勉強会の開催意義が話し合いの的となりました。そのような話し合いの中で、流域圏懇談会の現状として、『各地域部会が抱える課題』は、各地域部会の中では共有できていますが、『他の地域部会も含めた流域圏懇談会全体の共通認識となっていない』ことが、そもそも今解決するべきことではないかという結論に達しました。

そこで、今後の活動方針として、**各地域部会が抱える課題を流域圏懇談会全体の共通認識とすべく、矢作川を巡るバスツアー**の計画を行うことになりました。バスツアーに向けた今後の活動方針は以下の通りです。

- ①各地域部会から、他の地域部会へ紹介したい・知ってほしい事柄を募集する。
- ②上記①であげた事柄を紹介するための場所を募集する。
- ③集めた意見を基に、各場所を巡るバスツアーを計画する。
- ④次年度以降に、バスツアーを開催する。

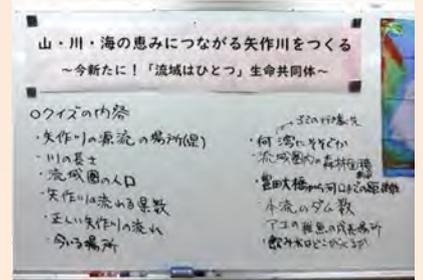
このバスツアーの各地点における解説は、それぞれの地域部会に担当をしていただく予定です。

3. 矢作川感謝祭における懇談会のPRについて

2019年9月8日に矢作川感謝祭が豊田大橋の下で開催されます。今年度は、矢作川流域圏懇談会のブースを出展するとともに、部会メンバーが壇上に上がり、懇談会の紹介を行う予定となっています。

昨年度の市民部会WGの中で、市民が矢作川の情報を知る手段が少ないことが課題としてあげられました。そこで、多くの市民が参加する矢作川感謝祭において、懇談会の活動を紹介するだけでなく、矢作川の情報や山・川・海のつながりを参加者に理解してもらうために、情報発信の方法について意見交換を行いました。

一つの案として、懇談会の紹介の中で知り得た情報をクイズとして出題し、正解者には景品を贈呈することがあがりました。WGでは、市民部会メンバーが発信したい情報からクイズの案を検討しました。



クイズ案の検討

◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●今年度の活動方針について

- ・「地域部会間で連携して解決したい課題」を考える前に、何をすることが連携となるのか考える必要がある。(光岡)
 - ▶ 連携しなくてはいけないことは、具体的な事柄ではなく、まずはお互いに理解することである。(山本)
 - ▶ 連携として必要なことは、それぞれの部会が抱えている課題、もしくは他部会と関連した課題の単なる情報共有ではなく、情報を共有したうえで共通認識とすることである。昨年度に合同部会を開催したが、地域部会間で対立した状況が続いている。お互いに理解することが連携になるだろう。(近藤)
- ・水質の問題は、地域部会間がかみ合わない部分があるが、土砂の問題は共通的に意識が持てるはずである。川ではアーマーコート化、海では干潟や浅場の減少が問題となっている。山でも土砂管理の観点から、ダムが満砂してしまつては、山の人も困るという状況がある。(近藤)
 - ▶ 土砂は3つの部会共通の課題として、見方受取り方が違うことがわかった。各地域部会間で解決してほしい項目に少しずつズレがある。部会間での違いをそれぞれの部会が認識することが共通の課題である。(光岡)
 - ▶ 土砂問題の一つの解決策として国交省が取り組んだ小渋ダムを視察することも連携の一つとなる。(井上)
 - ▶ ダムがあることを前提とした土砂の適切な流し方を考えたときに共通認識が持てるのではないか。山に必要な土砂は山にためつつ、普段は少しずつ河川に流れていくような土砂の排出量が良いという話もある。排砂バイパスという考えもあるが、土砂に対する山林のあり方について話し合うのもよいかもしれない。(近藤)
- ・他の地域部会のフィールドに対する意見を述べるばかりではよくない。また、今後の目指す流域の姿として、市民レベルの考えと学識者の研究データに基づいた考えの間に差があることは、注意しなくてはならない。(近藤)
- ・土砂の問題において、ダムへの堆砂だけではなく、水量が無くて土砂が流れないことも重要である。良い川の指標としてダイナミズムがあるが、それがなくなってきたことが河床のアーマー化に関係しているかもしれない。(近藤)
- ・明治用水などで水が引かれているが、安城などでは夏に明治用水付近の水路で泳いだりしていた時もあったと聞いている。歴史の中で川として位置づけられ、利用されていると感じている。(沖)
- ・山部会は良い山をつくったときに、下流に対してもたらす成果について発信してもよいのではないかと。(井上)
- ・過去に流域圏懇談会が大きく変わったきっかけは、流域の上流から海までを巡ったバスツアーである。そのため、それぞれの地域部会で抱える新たな課題や共通認識として持つべきことをテーマとして組んだバスツアーを開催してはどうか。(近藤)
 - ▶ また、今年度の市民部会の活動では、他部会に知ってほしいテーマとそれに対応する場所を各地域部会に聞きながら、バスツアーを計画するということを目的としてはどうか。(近藤)
 - ▶ 情報共有だけとか、全ての部会メンバーで解決策を話し合うなどテーマごとに目標を設定すればよい。あまり地点が多くなるのも大変であるため、各地域部会から2~5地点程度としたい。(光岡)
 - ▶ ツアーの企画は市民部会がやるが、各場所における解説はそれぞれの地域部会に担当してもらい、これまでの議論の内容を伝えてもらう。事前の勉強を地域部会ごとに行う必要があるかもしれない。(近藤)
- ・矢作川について市民が考える土台を作るために、市民部会から情報を発信できればよい。(井上)
- ・少子高齢化が進行する現状を考慮して、今後の川づくりや地域の体制について考えてみたい。(山本)
- ・流域圏担い手づくり事例集の作成を通して、多くの若者が活動していることが見えてきた。(近藤)



●振り返り

よかったと思うこと：連携して解決したい課題について市民部会として明確化できた。

よくなかったと思うこと：もう少し参加者を増やしたい。/参加要件の緩和と周知。/平日昼間の開催は参加制約の最大要因。

今後取り組んでいきたい活動など：少子高齢化が進行する現状をふまえた矢作川流域での川づくり・地域づくりの提案。

今後の予定

■第5回市民部会 WG

日時：令和元年10月29日(火) 14:00~16:30 豊田市崇化館交流館4階



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 市民部会編 vol.2



発行日：令和元年 11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第5回市民部会を開催しました！

今回の市民部会 WG では、今年度行われた流域連携イベントについて参加状況を報告し、それに対する意見交換を行いました。また、11月22日に開催される勉強会の内容を検討するとともに、来年度に開催予定の地域部会合同のバスツアーに向けた話し合いを行いました。



日時：令和元年 10月29日（火）14:00～16:30

会議場所：豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室

参加者：12名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 今年度開催された流域連携イベントについて



今年度は3つの流域連携イベントが開催され、矢作川流域圏懇談会として参加しました。

- ①事例集交流会2019（6月22日 岡崎市高木製作所研修所）
- ②2019矢作川感謝祭（9月8日 豊田市千石公園（豊田大橋下））
- ③第6回三河湾大感謝祭（10月20日 碧南市大浜漁港）

参加された部会メンバーの意見を参考に、良かった点や改善点などを話し合いました。

②と③のイベントでは、今年度からクイズ大会を実施したことで懇談会のブースに多くの集客があり、矢作川の情報発信に効果を発揮しました。一方で、文章の多い懇談会通信の掲示を見るお客さんが少なかったなどの課題もありました。

また、今年度試験的に開催された矢作川いかだ下り大会の主催団体からは、矢作川流域圏懇談会の参加を求める声が出ています。そのため、来年度の早い段階で流域連携イベントへの参加方針を話し合うことで意見がまとまりました。



2. 勉強会（小渋ダム見学）の内容について



前回の第4回市民部会 WG では、今年度の流域連携の取り組みについて話し合いを行いました。その中で、流域連携テーマの一つである「土砂」問題の解決策として、国土交通省が取り組んだ小渋ダムにおける土砂バイパスの見学が話題としてあがりました。

小渋ダムでは、ダムに堆積した土砂による貯水機能の低下が課題となっています。その課題解決策として、土砂バイパスを作り、流れてくる土砂を出水とともに下流へ流す取り組みを行っています。一方、矢作川では、下流への土砂の供給が少なくなり、河床のアーマー化や干潟の減少など、様々な問題を抱えています。

懇談会では、かつて第27回川部会 WG で運用開始前の土砂バイパスを見学しているため、今回計画した勉強会では、運用している様子を見学し、新たな技術的知見の共有を目的としました。様々な部会から参加していただけるよう、意見交換を行いました。



3. 各地域部会が他部会に紹介したい内容について



市民部会では、各地域部会が抱える課題を流域圏懇談会全体の共通認識とすべく、矢作川を巡るバスツアーを来年度以降に開催することを目標としています。今年度は、山・川・海の地域部会から、他部会に紹介したい内容と場所を各部会で議論した上で選定していただくよう、提案することとなりました。

市民部会として、各地域部会に紹介してほしい場所は以下の通りです。

●山部会

放置された人工林

●川部会

矢作ダム（土砂の問題）

●海部会

終末処理場、トンボロ干潟、漁場

山が抱える問題を山だけの問題（川、海も同様）として捉えるのではなく、流域全体の問題として矢作川流域圏懇談会全体で共通の認識を持ちたいと考えています。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●今年度開催された流域連携イベントについて

- ・矢作川感謝祭は元々、漁協さんを中心とした会だったが、若い人や新たな団体が加わり、雰囲気が変わった。(近藤)
 - ▶ 流域圏懇談会の海部会で出展した海の生き物の展示は子ども達が集まり、盛況だった。(高橋)
- ・三河湾大感謝祭で赤色立体地図を置いたら、人が集まり、昔の海の範囲などの話ができておもしろかった。(高橋)
 - ▶ 文章の多い懇談会通信などの掲示を見る人はほとんどいなかった。(山本孝)
- ・三河湾大感謝祭が開催された碧南市は醸造所が多く、歩きながら原酒を飲んだり楽しめる場所であった。(高橋)
 - ▶ その周辺は寺が集中して並んでいる。昔は寺の場所のみ陸地で両側が海というおもしろい地形であった。(近藤)
- ・来年以降、良かったことは拡大し、改善点は見直すなど、早い段階から意見をもらいながら進めていきたい。(光岡)
- ・今年は矢作川のいかだ下り大会が試行された。主催団体は矢作川流域圏懇談会の参加を望んでいる。(近藤)
 - ▶ いかだ下りはどこで実施され、距離数はどのくらいだったのか。(光岡)
 - ▶ 越戸から豊田大橋までの4km程度だと思う。今年は水量がなく、いかだを引っ張っていた。昔やっていた川下り大会のときは、越戸ダムから水を出してもらっていた。また、事故には細心の注意が必要である。(近藤)

●勉強会(小渋ダム見学)の内容について

- ・平日一日拘束する内容なため、参加者は25人程度だと予想される。土日だともっと集まるのではないか。(近藤)
- ・小渋ダムに行く目的や経緯などをわかりやすく部会メンバーに発信すると参加者が増えるはずだ。(山本薫)
- ・土砂バイパスで堆砂を流しても下流のダムに堆積するため、ダンプで直接海まで運ぶというやり方も良い。(高橋)
 - ▶ 誤解してはいけないのは、土砂バイパスはこれからダムに入ってくる土砂を洪水時に流すものであり、すでに堆積している土砂を流すものではない。現状溜まっている土砂は砂利屋さんが粛々と採っている。(神本)
 - ▶ 様々なダムがそれぞれ課題を持っている。今回は小渋ダムの独特な課題の解決方法を見て学べると良い。(光岡)

●各地域部会が他部会に紹介したい内容について

- ・3つの部会から意見を出してもらおうが、それを利用して、最終的に目指すゴールは何にするのか。(光岡)
 - ▶ バスツアーのルートを決めることが一つのゴール。ルートを作ってからその先が見えてくるはずだ。(山本孝)
- ・ただ単に各部会で話し合っている内容やテーマを共有するだけではなく、地域部会間で共通認識としたい。そのため、各部会の参加者個人の意見を集めるのではなく、各部会で議論したうえで地点を選定してほしい。(近藤)
 - ▶ このバスツアーは各部会で「どんな視点で、この地点を見て議論した」「こんな原因があって、こんな課題を抱えている」というのを他の地域部会に紹介する位置づけである。(光岡)
 - ▶ 各地域部会がお互いの内情を知っていないと、矢作川にとって何が一番いいことなのかかわからない。(高橋)
- ・各地域部会にあげてもらった地点を全て回れるわけではないので、優先順位をつけて選定してほしい。(光岡)
- ・地域部会で話し合うときに、過去のバスツアーの開催年と見学場所を示してもらいたい。(内田)
- ・市民部会の役割は、流域市民として「これを見たい」というのを提案することだ。(近藤)
 - ▶ 山では、放置された人工林の問題が重要だ。落葉広葉樹は冬に水を使わないが、人工林は冬も水を吸い続けているため、放置された人工林により川の水量が減っている。(山本薫)
 - ▶ 海では、トンボロ干潟や終末処理場、漁場を見てもらおうべきである。(高橋)
 - ▶ 海で魚や鳥がいなくなっていることを認識して、海だけではなく上流域の都市の問題だということがわかるように情報を紹介すべきである。(近藤)
 - ▶ 川では町に水がひかれ、水量が減少していることは大きな問題だ。(高橋)
 - ▶ 川で矢作ダムは外せない問題である。また、川には土砂以外にも洪水による影響も必要だ。(近藤)
- ・人工林がなぜ悪いのか、天然林と比べてここが違うという点を説明してほしい。(山本孝)
 - ▶ きちんと管理できていれば人工林も問題はない。時代の要請がなくなって放置された人工林が森林の半分近くある。このような人工林はお金を生まなくなっているため解決が難しい。(山本薫)
 - ▶ 一番是正しなければならないことは、森の問題を山の人たちの問題とと思っていることだ。流域全体の問題にしなくてはならない。意識をそこまで高めることがツアーの課題である。(近藤)
- ・各地域部会の課題を紹介するだけではなく、併せて良い事例も紹介していただくと理解しやすい。(野村)

●振り返り

よかったと思うこと：久しぶりに市民部会に出て雰囲気が良かったこと。/今日のような話が今後もできると良い。

今後の予定

■市民部会「まとめの会」

日時：令和元年12月18日(水) 14:00~16:30 豊田市崇化館交流館3階 第1研修室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 市民部会編 vol.3



発行日：令和2年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第1回市民部会まとめの会を開催しました！

市民部会まとめの会では、今年度の市民部会の取り組みと次年度に向けた目標設定について意見交換を行いました。特に、今年度は市民部会から勉強会の開催やバスツアー開催計画を提案するなど、新たな取り組みを行ってきました。次年度だけではなく、今後の市民部会の方針についても話し合いました。



日時：令和元年12月18日（水）14:00～16:30

会議場所：豊田市崇化館交流館3階 第1研修室

参加者：13名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 勉強会及び流域連携イベントのふりかえりと次年度の取り組みの確認について



今年度は、市民部会の提案として勉強会を一回開催しました。流域連携イベントは、矢作川流域圏懇談会の主催で事例集交流会を開催し、他団体主催の2つのイベントに参加しました。

【勉強会】

- ・第15回勉強会 (11月22日 長野県大鹿村 中央構造線博物館、上伊那郡中川村 小渋ダム)

【流域連携イベント】

- ・事例集交流会2019 (6月22日 岡崎市高木製作所研修所)
- ・2019矢作川感謝祭 (9月8日 豊田市千石公園(豊田大橋下))
- ・第6回三河湾大感謝祭 (10月20日 碧南市大浜漁港)

勉強会では、山・川・海の各地域部会メンバーが集まり、これまで川部会で中心として話し合われてきた土砂バイパスについて、懇談会全体に情報を共有しました。また、感謝祭では矢作川に関するクイズを出題するなど、一般市民が矢作川の情報に触れる機会を提供しました。

次年度は、市民部会メンバーが知りたい情報や流域市民に知ってもらいたい情報を学ぶ場として勉強会の開催を提案します。今後さらに、外部の一般市民が集まるイベントで矢作川流域圏懇談会の情報発信を行いたいと考えています。

2. 今年度の活動状況のふりかえりと次年度に向けた目標設定について



【今年度の取り組み】

昨年度のWGであげられた以下3つの課題に対する今年度の取り組みについて話し合いました。

◆市民部会（市民会議としての）流域連携テーマの議論

→第4回市民部会で「流域連携とは何をすれば連携となるのか」という流域連携の意義を確認し、勉強会の方針を検討。

◆山・川・海合同ツアー（勉強会）の開催（頻繁な開催）

→市民部会から第15回勉強会の提案し、開催。次年度以降に矢作川を巡るバスツアーの開催を提案。

◆地域部会（山・川・海）の話題・課題を把握できるシステム

→各地域部会の課題を懇談会全体の共通認識とするために、バスツアーを提案。各地域部会で話し合ってきた課題・内容の収集を開始。

【次年度の目標】

次年度は、矢作川を巡るバスツアーの開催を目指して、各地域部会から集めた意見を元に、バスツアーのルート及び内容を計画します。また、勉強会の開催によって流域住民に情報を発信していきたいと考えています。

【今後の課題】

この10年間で新たに見えてきた課題や問題の明確化を目指していきます。また、これまでつながりの少なかった農業や工業などの団体との関係を築きたいと考えています。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●勉強会及び流域連携イベントのふりかえりと次年度の取り組みの確認について

- ・地域部会でも流域連携に取り組んできたが、個人的に連携して活動している人もいる。もっと紹介すべきだ。(高橋)
- ・3つの地域部会の活動場所でそれぞれ合同部会を開催できたらよい。(高橋)
 - ▶ 他の部会に情報を発信し、懇談会全体で共通基盤を構築できるような会を最低でも年1回開催したい。(光岡)
- ・ネオニコチノイド(農薬)が閉鎖水系の微生物へ悪影響を与えているという論文がある。農家の人は害になっていることを知らない。生態系へ影響がない農薬を使ってほしい。勉強会を開き、情報を発信したい。(山本薫)
 - ▶ 化学合成繊維の服を着ているが、洗濯するたびにマイクロプラスチックが流れているなど、衝撃的な情報がある。また、農薬やマイクロプラスチックの話題は子育てをしている若い年代の人を呼び込める。(沖)
 - ▶ 農薬やマイクロプラスチック、アサリの減少、鳥獣被害など、10年前にはなかった問題が見えてきた。これらを議題とした勉強会を開催し、可能であれば一般にも公開したい。(井上)
 - ▶ 10年間で新しく出てきた課題の明確化は今後の市民部会での課題である。(山本薫)
- ・バスツアーのような、場所を移動して行う勉強会をもう少し積極的に開催してもよい。(光岡)
- ・矢作川に対する意識を持っている人だけではなく、懇談会の活動に来ていない外部の人にどうやって活動を広めていくかが今後の課題である。矢作川感謝祭などをうまく活用していきたい。(近藤)

●今年度の活動状況のふりかえりと次年度に向けた目標設定について

- ・3つの地域部会で専門的なことが話し合われており、他部会の話し合いの内容が理解しにくい状況である。流域圏全体で共通となる話題については異なる部会メンバーが同じ視点で話し合えるよう、市民部会で取り組みたい。(光岡)
- ・流域圏懇談会は河川区域外も含めて考えていくべきだ。明治用水や枝下用水の関係者に来てもらいたい。(山本孝)
 - ▶ 流域というと農業や工業、生活水の全てが関係するが、工業関係者は地域部会に参加していない。いろいろな関係団体とのつながりの補強が今後の市民部会の課題になる。(光岡)
 - ▶ 農業団体の方との接点は少ない。昔は山と農業は兼業だったが、近年は専門化されている。(沖)
 - ▶ 農業・工業・生活水はほぼ100%矢作川の水が使われている。この範囲を含めて矢作川流域である。また、明治用水関係の農協の方はいろいろなことに取り組んでおり、働きかければ協力を得られるはずだ。(高橋)
- ・工場で大量の水を取水しているが、あまり川に戻ってきていない気がする。(光岡)
 - ▶ 川へ戻すこともしているが、濁水期のために多めに取って、多めに海に流している可能性がある。(高橋)
 - ▶ 源兵衛川では市民の働きかけで工場が用水を川に流した。市民と工場が協力して取り組む道はある。(山本孝)
 - ▶ 市民部会が工業関係者に用水関係の話を聞きに行くのもよい。(高橋)
- ・今年度の成果・課題だけではなく、過去の課題を踏まえたうえで少しずつ進んできたことを整理すべきだ。過去の成果もその時点でできたことではあるが、終わった話ではないので積み上げてまとめるべきだ。(近藤)
- ・今後の課題として、「矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動」「市民部会としての流域連携テーマの議論」「地域部会の話題・課題を把握できるシステム」という3つの項目はよく整理できている。(山本薫)
- ・矢作川流域の名物や流域で生きることの楽しさなどを市民部会で発信したい。個人でも発信していきたい。(山本孝)
 - ▶ メーリングリストでも各部会の情報を配信していきたい。写真などもあるとよい。(山本薫)
 - ▶ メーリングリストでの情報は懇談会の中での統一見解である。それとは別に個人の責任で各個人が情報を発信することも重要なことである。(山本孝)

●振り返り

よかったと思うこと：市民部会の役割が見えてきて嬉しい。／具体的になってきたので、活気が感じられた。

今後取り組んでいきたい活動など：一般市民への情報発信と勉強会やバスツアーへの参加を誘う。／勉強会のテーマ決めへの参加。／市民部会個人として勝手に発信する。

山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる

～新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

各地域部会の課題・問題を矢作川流域圏懇談会全体の共通認識とすること目指して、市民部会は活動していきます。

今後の予定

■第9回全体会議 日時：令和2年2月25日(火) 14:00~16:30 愛知県西三河総合庁舎

■バスツアー2020(仮称)事前打合せ

日時：令和2年2月25日(火) 17:00~18:00 東岡崎駅前レンタルセミナールーム&スタジオ



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 勉強会 vol.1



発行日：令和元年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第15回勉強会を開催しました！

今回の勉強会では、市民部会の提案により、3つの地域部会で共通する話題である土砂問題について新たな技術的知見を共有するため、天竜川の上流に位置する小渋ダム土砂バイパスの運用状況について視察を行いました。また、矢作川流域に多く分布する領家花崗岩の成り立ちや過去に生じた土砂崩壊の実態などが見学できる中央構造線博物館を見学しました。



日程：令和元年11月22日（金） 9:00~17:30

場所：長野県大鹿村 中央構造線博物館

上伊那郡中川村 小渋ダム（天竜川ダム統合管理事務所）

参加人数：17名（事務局を含む）

◆主な活動内容

1. 中央構造線博物館の見学

■中央構造線について（パンフレットより抜粋）

- 中央構造線は、恐竜時代に生まれた大断層です。中央構造線を境に、できがちがう岩石が接しています。
- 中央構造線がとおる所は断層粘土化しているため侵食が進み、断層が尾根を横切るところに小さな峠のような地形（鞍部）ができます。鞍部どうしを結び、中央構造線の上に一直線に並びます。



大鹿村の地形及び地質の模型



■矢作川水系総合土砂管理計画について

博物館の学習スペースをお借りし、矢作川水系での取り組みについて、改めて情報共有を行いました。それを踏まえ、小渋ダムの見学に向けて疑問点などの整理を行いました。



地形地質の模型が置かれた部屋の床は中央構造線の境界で色分けされていました

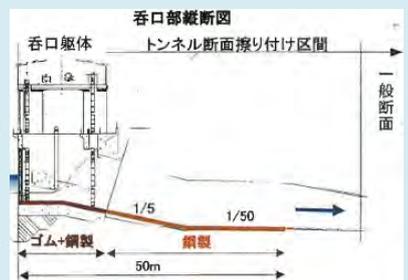
2. 小渋ダムの見学

天竜川ダム統合管理所の岡本管理課長に小渋ダム及び土砂バイパスについてご説明いただきました。

- 事務所が管理している美和ダムと同様に、小渋ダムは土砂の流入量が多い。
- 土砂バイパスは美和ダムでも運用されているが、こちらはシルトなどの沈殿しにくい非常に細かい土砂を流し、ダム湖内の堆砂対策と水質改善を目的としている。小渋ダムは、美和ダムの後に計画され、シルトなどの細かいものに加えて、細かい砂利や砂も一緒に流すため、トンネル底盤部のコンクリートは45cmの厚さと非常に硬いコンクリートで作られ、摩耗に耐えられる構造にした。
- 小渋ダムの土砂バイパストンネルは平成28年に運用を開始し、平成30年までに8回、合計約26万m³の土砂を流した。下流の環境は変化している状況ではあるが、生物の生息状況に大きな影響はない。今後も、注意深くモニタリングしたい。
- 土砂バイパスは上流に分派堰を設置して、土砂をためることで呑口から土砂を流れやすくしている。呑口の前に流木ハネを作り、流木によるゲートへの影響を軽減した。
- これまでの運用で土砂によりトンネル内は最大137mm摩耗した。トンネル自体は、コンクリートが削れても下に岩盤があるため、大きな影響はないと考えている。ただし、脆弱な地質の場所もあり、それが削れるとトンネルへの影響も考えられるため、摩耗した場所の修復方法についてモニタリング委員会で検討中である。
- トンネルの呑口部は勢いが強い必要があるため、急勾配にしている。これにより、大きな摩耗が予想されるため、鉄板とラバーチールを設置した。これは効果的であった。



土砂バイパス 呑口



◆ 質疑応答

(・ 意見 ▶ 回答)

■ 小渋ダム土砂バイパストンネル運用後の状況と課題について

- ・ 摩耗は、鉄板を張っている場所で生じていると思われるが、その下流の状況はどうか。
 - ▶ 下流はそこまで摩耗していない。流速の速い場所が削れやすいと思われる。また硬いコンクリートの箇所とそうでない材質の箇所との間には削れ方に違いが出ていると思われる。
- ・ 吐口部分のカーブしている箇所の摩耗状態はどうか。
 - ▶ カーブ箇所は内側が削れやすい。内側は流速が遅く、大きいものが集まりやすいため、削れやすいのではないかと学識者から意見をj得ている。
- ・ どんな状況の時にバイパスに流すのか。また、豪雨出水時に流さない場合もあるのか。
 - ▶ 豪雨出水時に流さないことは基本的にない。運用上は流入量が毎秒100m³を超えたら、ゲートを開けると定めている。開けるタイミングは検証中。ただし、異常洪水に耐えられる設計にしていなため、先般の台風19号の時のような異常洪水時には開けない。
- ・ 小渋ダムに溜まる堆砂量は測量等で把握しているのか。また、土砂バイパスを運用後、堆砂量は増加しているのか。
 - ▶ 測量は行っている。また、土砂バイパス運用後も堆砂量は増えている。流入量が毎秒100 m³を超えたらバイパスから流すよう決めているため、それより小さい洪水の時は開けない。そうするとどうしてもダムに土砂は流れ込んでしまう。特に春先の雪解けの時期は洪水にならない程度の水量であるため、土砂が入りやすい。ゲートを閉める条件は今のところ流入量100 m³未満が基準であるが、検討中である。洪水の特徴として、どこの河川でも洪水の初期に土砂濃度の高い水が流れてくる。そのため、初期になるべく早く開けたいが、操作規則との兼ね合いや利水の確保との調整に悩んでいる。
- ・ 今年うまく運用できなかったと言っていたが、どういうところに難しさがあったのか。
 - ▶ この大きさのバイパスの構造自体が全国にないため、想定土砂量よりも多く入ってきたり、呑口に堆積したりしてゲートが開かないなど、想定していないことが起こった。この小渋ダムで見えてきた課題は今後の矢作ダムでの土砂バイパスで参考にしてほしい。土砂は水の中にあるため、どのような影響を与えるかは、実際に運用してみないと分からないことが多い。また、管理上の課題についても、運用してから分かることがある。



吐口での集合写真



吐口にたまった土砂



吐口のペンキ帯



■ 吐口の状況について

- ・ トンネルは高さ8m、幅6m。流れてきた土砂の影響の高さがわかるように吐口の壁にペンキの帯を塗ったが、流木が当たったところは塗装が削れていた。これまでの運用では、出水後トンネル内の土砂はほとんど流れ出ている状況であった。そのため、摩耗の状況も昨年までは見学できていたが、今年の台風19号で閉めるときにトラブルがあり、少ない水を少しずつ流してしまっためトンネル内に土砂が残ってしまっている状況である。20cm程度の大きさの土砂は流れていることがわかる。

土砂バイパストンネル			管理用トンネル		
計画放流量	370m ³ /s	縦断勾配	1/50	断面形状	楕型
断面形状	一般部 馬蹄型	対象土砂	礫・砂・シルト	延長	172m
	呑口部に一部楕型	最大流速	14.4m/s	コンクリート強度	18N/mm ²
延長	3,999m	コンクリート強度	覆工: 21N/mm ² 水路部: 50N/mm ²		

よかったと思うこと： 前回の見学では見ることでできなかった土砂バイパス運用後のいろいろな課題を現地で見ることができた。／博物館の説明が大変質の高い内容であった。／土砂バイパスの試みを含め、時代の課題と同感した。／久しぶりの勉強会で矢作川でも計画されている排砂装置の実情を見学することができた。／博物館・小渋ダムともに有意義な見学であった。／日本列島の中での矢作川流域の位置づけが少しわかった。／土砂バイパスを現地で見学し、自然の力を人がうまく利用することなど、考えることができた。／よく準備していただき、贅沢な見学・勉強の機会をいただけて感謝している。

よくなかったと思うこと： 矢作川の川部会に最も関係が深いダム下流の河道の様子をほとんど見るができなかった。／雨で寒かった（自然が相手なので仕方がないこと）。／博物館の時間をもう少し長くともってもらいたかった。／帰りのバスが高速道路で一時退避した時に、詳しい理由を周知してほしい。

今後取り組んでいきたい活動など： 矢作川水系の環境と持続可能なあり方を考えていきたい。／山・川・海の問題点の相互確認。／現在取り組んでいる小河川の水源の森の若返りに活かしていきたい。／土砂バイパスは、出水のときに機能を発揮するという点は、他のことなどに活かしていけると思った。／地元の何を見て、他地域の事例を取り入れていくか、が課題の一つだと感じた。

その他（質問など）： 洪水（大雨）時のダムの安全性について知りたい。／「土砂バイパス」の可能性について知りたい。／全国での土砂バイパストンネルの実績について知りたい。／懇談会の活動に参加したのは3回目だったが、参加後に矢作川や支流を見る目が変わっていくことが楽しみである。

◆ お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。



発行日：令和元年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆流域圏担い手づくり事例集交流会 2019 を開催しました！

矢作川流域では、水源の森づくりを担う山村で過疎化と少子高齢化が進んでいます。その解決の糸口として、矢作川流域圏懇談会山部会は、2013年度から4年間かけ、矢作川流域で主として中山間地振興に携わる団体（一部川や海の活動団体を含む）の取材記録をまとめ、流域内の多様な主体によるネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」を4冊発行しました。

2017年度から川、海部会とともに取材先として川・海の環境保全や水辺空間の再生・利活用に携わる団体を増やし、2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を発行しました。これらの事例集づくりをもとに人のつながりを深め、広めることをめざして、交流会を開催しました。



日時：令和元年6月22日（土） 14:00～17:30
場所：岡崎市石原町 高木製作所 研修所
参加人数：30名（事務局を含む）

◆交流会の活動報告と今年度の方針について

1. 活動報告



■一般社団法人奏林舎

唐澤晋平さん（代表理事）

【流域圏担い手づくり事例集Ⅱ P47～P51 掲載】

奏林舎は、「地域に根差した豊かな森づくりを通じて、山里と流域全体の持続的発展に貢献する」ことを目的に、岡崎市額田地域で民有林の間伐や森林整備等を行っています。山での活動を通して、山を所有する山主から社会に木材が出回るまでの流れの中で、山主への還元が少ないことに違和感を持ち始めました。そこで、山主にも利益を還元する「地域材のフェアトレーディング」の仕組みづくりを目指して、2017年から社会実験に取り組んできました。実験は、枝打ちされたヒノキから50坪程度の無節床板材を中心に製造販売を行い、製品の取れ高に応じた出材者への清算、また出材地の山林情報の調査・マッピング等を行うものです。この成果として、額田地区の優良な木材を使い、地元の製材所・工務店と連携して作られた高品質な内装材「リタウッド」が完成しました。リタウッドの生産過程では、全体の調整を行うコーディネーターが仲介に入ることによって、関係者が納得できる価格を設定できる仕組みとなっています。同時に、山主自身も木材流通や価格決定の仕組みを学ぶことで、より高く木材を売る方法について一緒に考える場となっています。

■岡崎市めかたブランド協議会

眞木宏哉さん（岡崎森林組合）

【流域圏担い手づくり事例集Ⅱ P63～P65 掲載】

岡崎市めかたブランド協議会は、額田地域において、所得の向上や雇用の増大に向け、地域内の農林水産業等の地域資源の潜在的な力を活用し、商品化や販売促進等の取組みを推進しています。活動は以下の部会により行われています。

- ・かき氷部会：地域の特色を活かしたシロップと額田の名水「^{かんすい}神水」を使用したかき氷を提供する「かき氷街道」を企画。
- ・木材部会：木質バイオマス等の地域資源調査や森づくり推進運動（簡易足湯キットの試作や足湯体験イベントの開催）の実施。
- ・薬草部会：ヨモギ試験栽培やヨモギ湯及び茶のサンプル試作の実施。
- ・鮎部会：天然鮎漁獲実績調査や真空包装及び-60℃保存試験の実施。
- ・自然薯部会：自然薯の商品開発、試作品の販売やPR方法の検討。
- ・山菜部会：統一ブランドマークの商品への貼り付け等によるPR。
- ・販売戦略部会：イベント参加や地域を紹介するパンフレットの検討。
- ・その他：JAあいち三河、愛知学泉大学とのコラボにより、ジビエと豚肉等の食べ比べクイズやアンケートを実施。また、統一ブランドマークのデザインの作成を行い、活動の普及に努める。



■MAKITA BOYS

【事務局からの報告】中田慎さん

MAKITA BOYSは岡崎市内を流れる乙川で、殿橋の欄干に出現した野外カフェや殿橋テラスの撤去を行っています。団体名は、撤去の際に用いる電動工具メーカー名から派生したものです。メンバーは、「乙川でかわまちづくり等をプロジェクトしている人」と「殿橋テラスでお店を出すなどの川を利用している人」により結成されています。川を利用している以上、増水や河川の氾濫等の危険が生じる可能性が高い場合、施設の撤去を行わなくてはなりません。撤去は、誰にとってもうれしくない作業ですが、MAKITA BOYSのメンバーはこの作業でさえ楽しんでしまおうという姿勢で取り組んでいます。2019年2月に東京都渋谷区で実施されたMIZUBERING FORUM2019では、彼らの活動が評価され、オーディエンス賞を受賞しました。メンバーの一人である天野裕さんに発表の依頼をしていましたが、忙しいとのことで、今回は事務局からの報告となりました。

【天野さんからのコメント（活動紹介）】

おとがワ！ンダーランドのWEBサイトをリニューアルしましたので、お時間があるときにご覧ください。乙川の日常の姿を紹介して、日常の利用を啓発したいと考えています。

■流域圏の繋がりが未来へ ～佐久島アートプラン21・オフィスマッチングモウルの事例をはじめとして～

近藤朗さん（愛知・川の会）

【流域圏担い手づくり事例集Ⅱ P59～P62 掲載】

有限会社オフィス・マッチングモールは、現代美術に関するコーディネートとプランニングを行う事務所として、1999年に岡崎市で設立されました。現在、佐久島で実施されている「三河・佐久島アートプラン21」事業を受託し、島の中にアートを配置すると同時に、アートによる島の魅力の発信に取り組んでいます。この取り組みの成果として、2018年にはSNS映える場所として佐久島が若い女性を中心に注目されました。また、佐久島への渡船利用者数が増え、渡船の便数が増加するなど大きな効果を生んでいます。今後の目標としては、「もっと島本来の自然、魅力を歩いてまわる島を目指す」ことを考えています。目標の実現に向け、佐久島の自然や地域資源に詳しい人を探す中で、矢作川流域圏懇談会のメンバーとのコラボの話があがりました。そこで、2019年1月から6月にかけて、川部会の近藤さんや海部会の高橋さんを中心として佐久島に渡り現地視察や探鳥会を行うとともに、新たな取り組みの可能性について協議を進めています。流域圏担い手づくり事例集の作成活動から生まれた新たなつながり・取り組みの誕生に期待が高まっています。



2. 事例集の成果や今後の方向性に関する意見交換

●流域圏担い手づくり事例集の成果について

今回の事例集交流会で紹介されたオフィス・マッチングモールの活動のように、取材活動を通じたつながりが少しずつ拡大しています。また、インターネット上に公開された活動内容を見て連絡をもらったという意見もあり、「流域内フェアトレードと、食・エネルギー・水・医療・教育・安心安全の自治の促進」という目標に向けて少しずつ成果が表れ始めていることを確認しました。

●今年度の流域圏担い手づくり事例集の活動について

近藤さんの発表スライドより

今年度の活動としては、流域圏（山村再生）担い手づくり事例集及び矢作川流域圏懇談会のこれまでの活動を振り返ることのできる冊子の作成を行います。冊子の作成にあたり、編集委員会を立ち上げました。編集委員会を中心として地域部会間で連携を取り、矢作川流域圏懇談会の中で取材を行うことにより、これまでの矢作川流域圏懇談会の活動についてまとめていく方針としています。また、過去の活動については参加されなくなった方への取材も検討していきたいと考えています。【編集委員会：浜口さん（とりまとめ）、洲崎さん（山部会）、近藤さん（川部会）、高橋さん（海部会）】

さて、流域圏調査の継承・系譜

- 2008～11年度 第1期～第3期調査 7団体（愛知・岐阜・三重 CBU/COP10）愛知・名古屋圏のための環境者事業で始まる
- 2010年度 CBU/COP10 開催
 - 矢作川流域圏懇談会 発足（山・川・海部会）
- 2012年度 22世紀 奈保の浜（3県）プロジェクト 発足
- 2013年度～ 奈保の浜（3県）での「流域エクスカーション」開始
 - 後に担い手育成「学生交流会」発足
- 2013～16年度 矢作川「山村担い手」調査 64団体
- 2017年～ 矢作川「担い手」交流会開始
- 2017年度～ 矢作川「流域圏担い手」調査開始

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 流域連携 vol. 2



発行日：令和元年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆2019年矢作川感謝祭に参加しました！

心配されていた台風15号も東にそれ、例年にない熱いイベントになりました。今年は「矢作川感謝祭」「橋の下世界音楽祭」「トヨロック」が共催し、愛知県だけでなく全国から集まった参加者に矢作川を発信することができました。矢作川流域圏懇談会は、設立10年に際し、懇談会の紹介と矢作川流域に関するクイズを行いました。また、懇談会に所属する矢作川水族館、岡森フォレストーズ、矢作川森林ボランティア協議会、流域の森林組合が出展し、感謝祭を大いに盛り上げました。

日程：令和元年9月8日（日）、参加人数：20名（事務局を含む）

場所：千石公園（豊田大橋下）



海の生物を説明する東幡豆漁協石川組合長

◆イベントの目的と矢作川流域圏懇談会の参加について

1. イベントの目的



矢作川流域の課題を今一度再認識するとともに、矢作川流域の自然の恩恵にあらためて感謝し、その実力と魅力を多くの人々に伝え、共感と行動へとつながることを目的とする。

（矢作川感謝祭HP「開催目的」より抜粋）

2. 矢作川流域圏懇談会の紹介



■矢作川流域圏懇談会の活動紹介

今年の矢作川感謝祭では、メインステージにて矢作川流域圏懇談会の活動紹介を行いました。壇上では山部会の洲崎さんが、普段の活動時の様子や、懇談会で作成した事例集の紹介、そして矢作川の名前の由来や、矢作川の最源流の山から海が川でつながっているというお話をしました。イベントでは、懇談会の活動を参加した人たちに大きく発信することができました。

■矢作川流域圏懇談会クイズの実施

懇談会のブースではクイズ大会を実施し、クイズに全問正解できた人に、賞品として「矢作川流域圏懇談会オリジナル下敷き」をプレゼントしました。クイズ大会には小さいお子様から大人の方まで約200名の方がチャレンジしました。

○矢作川流域圏懇談会クイズ（抜粋）

(1) 矢作川の名前の由来は？

- 1 矢の形をしているから
- 2 矢のように速く走っているから
- 3 矢を作る人が住んでいたから



矢作川源流の山（長野県平谷村）

(2) ここは河口から何キロ？

- 1 4km
- 2 40km
- 3 400km



清流矢作川（岐阜県恵那市）

(3) 矢作川の最源流の山は？

- 1 大川入山
- 2 小川入山
- 3 富士山

↓ (E) '2 (Z) '8 (L) : 泉護



矢作川のかっぱさん（感謝祭実行委員 新見さん）



矢作川流域圏懇談会の活動紹介（洲崎さん）



矢作川流域圏懇談会クイズに挑戦する親子

3. 矢作川流域圏懇談会 出展状況



流域圏の一体化をめざし、以下の内容で参加しました。

■矢作川流域圏懇談会クイズ大会

～壇上でのスピーチとクイズ出題～

矢作川流域圏懇談会のPRとクイズ大会を実施！全問正解者には賞品プレゼント！

■東幡豆漁業協同組合（石川組合長）

～海の生き物の展示～

寿司ネタでおなじみのシャコをはじめとした海の生き物を「見て・触って・遊べる」小さな海を設置！子どもや大人、家族に大人気！

■根羽村森林組合（今村参事）

～動く木のおもちゃの展示（プレイスメイキング）～

上流の村から、「見て・触れて・感じて・楽しむ」移動大型遊具を設置！子ども達も興味津々！

■岡森フォレストーズ

～岡崎森林組合職員で結成されたバンド、本イベントの盛り上げ役～

「岡森フォレストーズの音楽は、山で強く伸びる桧、まっすぐ育つ杉、愉しく暮らすカメムシだ！」

■豊田森林組合

～高性能林業機械の展示・薪割り体験～

チェーンソーや高性能林業機械を駆使したプロの凄ワザ（玉切りの実演）を披露！一般の方もチェーンソー体験や薪割りに挑戦しました！



子ども達に大人気だった小さな海



みんな興味津々だった木のおもちゃ



感謝祭を盛り上げてくれた岡森フォレストーズの皆さん



豊田森林組合による安全管理の指導から丸太のカットまで



小さな子どもも薪割りに挑戦

4. 矢作川感謝祭の開催風景



矢作川水族館による感謝祭の目玉



流域でとれる新鮮な海の幸を使った美味しいごはん



懇談会ブース周辺の盛り上がり

【矢作川感謝祭を通じて懇談会メンバーが感じた事】

- ・クイズ正解者に賞品（オリジナル下敷き）を渡すことで、家で矢作川に関する良い話題づくりになったと思う。
- ・壇上での話を聞き逃した方でも答えられるようなクイズにした方が良い。
- ・当日は天気が良く暑かったので、矢作川流域圏懇談会ブースを橋の下にした方が良い。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 流域連携 vol.3



発行日：令和元年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第6回三河湾大感謝祭に参加しました！

三河湾大感謝祭は、多くの人々に三河湾への関心を持ってもらうこと、そして持続可能な開発目標の理念の発信を目的として愛知県が主催したイベントです。矢作川流域圏懇談会は、三河湾につながる山の情報を知っていただくために、根羽村森林組合による「木に触れて楽しむブース」を出展しました。また、矢作川の情報発信を目的としたクイズの出題や懇談会通信の掲示を行いました。

日程：令和元年10月20日（日） 9：00～15：00

場所：碧南市大浜漁港

参加人数：11名（事務局を含む）



三河湾の環境再生、SDGsの達成に向けたセレモニー「ガンパローコール」の様子

◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

1. 目的とイベントの内容

■目的（テーマ、HPより抜粋）

愛知県では、多くの県民の皆様が三河湾に関心を持っていただくとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の一つである「海の豊かさを守ろう」を始めとするSDGsの理念を発信するため、第6回三河湾大感謝祭を開催します。

■主なイベント内容

- ◇三河湾環境トークショー（ゲスト：アウトドア派タレント 鉄崎幹人さん）
- ◇名古屋CLEAR'S（アイドル）ミニライブ&来場者との会場清掃
- ◇徳川家康と服部半蔵忍者隊のパフォーマンス など



矢作川流域圏懇談会のブースを愛知県知事に紹介しました

2. 矢作川流域圏懇談会・関係団体等 出展状況



■矢作川流域圏懇談会

～活動紹介と矢作川に関するクイズの出題～

懇談会通信の掲示と矢作川に関するクイズの出題を行いました。約60名のクイズ参加者には「矢作川流域圏懇談会オリジナル下敷き」をプレゼントしました。

イベントには27団体（国土交通省、愛知県等含む）が参加しました

■根羽村森林組合

～動く木のおもちゃの展示（プレイスメイキング）と木工体験～

三河湾につながる上流の山村から、「見て・触れて・感じて・楽しむ」木のおもちゃを設置しました。根羽スギのペンダントづくりでは、約40名の子どもや親御さんが取り組みました。

■愛知県水産試験場

～海の生きものの展示～

水槽に海の生きものを展示するとともに、パネルを用いた海の情報発信を行いました。

■中部ESD拠点協議会

～SDGsの動画上映と缶バッジづくり～

SDGs（持続可能な開発目標）に関する缶バッジの作成やSDGsの動画を上映しました。

■島を美しくつくる会

～シーグラスの写真立てづくり～

貝殻などを用いた「シーグラスの写真立てづくり」を行いました。

■国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所

～三河湾とシーブルー事業の紹介～

他の湾に比べて汚れやすい形状にあるといわれる三河湾の特徴を紹介し、きれいな水質を目指すシーブルー計画の発信を行いました。

■環境ボランティアサークル 亀の子隊

～パネル展示～

渥美半島にある西の浜海岸の現状を伝えるパネルの展示を行いました。



愛知県水産試験場



島を美しくつくる会のブース



三河港湾事務所のブース



■三河湾大感謝祭を通じて感じた事

【会場の雰囲気】

- ・本会場は、家族連れが多かった。
- ・缶バッチづくり等、ものを加工し、持ち帰ることができるブースが多かった（およそ9割程度）。

【よかったと思うこと】

- ・動く木のおもちゃの展示は、参加ブースの中では特に目立った。同様の企画はほかになく、子供が遊びに熱中するため、家族づれに好評だった。
- ・矢作川流域圏懇談会ブースは、ステージ寄りの右端先頭ブースの場所で、ブース以外の空間場所も使用でき、最高の位置どりであった。
- ・魚、貝等の海の生き物展示は3ブース程度あった。多くの家族連れを集客していた。
- ・流域圏クイズはまず回答を記入いただき、その後解答のチェックと補足説明を行った。これにより、流域圏について理解・興味をもっていただけた。今後の展示でも取り入れた方が良い。
- ・流域圏クイズの参加者には、矢作川流域圏懇談会下敷き、魚のクラフト紙を景品とした。景品は客寄せに必要なものだと考えられる。
- ・ペンダントづくりは子どもだけでなく、親御さんも楽しんでおり、家族で根羽スギについて知る機会となっていた。

【注意すべきこと・今後に向けた提案】

- ・単にパネル・パンフレット等の展示ブースは、ほとんど来場客がいなかった。
- ・懇談会内容説明パネル、懇談会通信を見た人は、1~2名程度だった。イベントでは、注目されないもので、文字の多いものはあまり情報として置かないほうが良い。
- ・ブースの大きさは、流域圏クイズ、パネル展示、懇談会通信、木のペンダントづくりを展示するには、少し狭かった。
- ・スペースが無く、パネルはテント奥の壁面に展示せざるをえなかった。
- ・今年は海風が強かった。風が強いことを想定して展示するもの、展示の仕方を変える必要がある。
- ・出店規模に応じて木のおもちゃ、ペンダント・弓矢づくりの内容を絞り込むほうが良い。
- ・可能であれば電動糸鋸をもう一台用意しておくこと、お客さんの作業がより流れるようになる。
- ・赤色立体地図パネルに情報を盛り込んだり、指さして話すことができるようにすると、人が集まるし、防災情報等も説明しやすい。
- ・昨年度の蒲郡でのイベントと比べ、飲食ブースが少なかった。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

R1 山部会編 vol.1



発行日：令和元年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第51回山部会WGを開催しました！

6月22日(土)に第51回山部会WGが岡崎市にて開催されました。今回は、今年度初めてのWGであり、懇談会の設立要旨・規約を再確認するとともに、10年間のとりまとめの方向性に関する意見交換を行いました。また、平成24年から山部会が取り組んできた「山と山村」「森林」という2つの課題に対する4つの解決手法(流域圏担い手づくり事例集、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドライン)に関する進捗報告と意見交換を行いました。



日時：令和元年6月22日(土)

場所：岡崎市額田センター「こもれびかん」集会室A・B

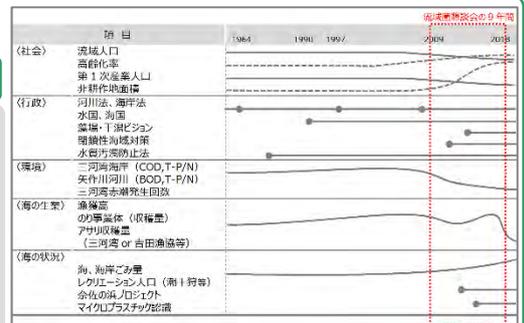
参加者：23名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 山部会のこれまでの成果のとりまとめ手法について



山部会のこれまでの活動成果のとりまとめについて、昨年度に議論された「流域年表」及び「冊子」の作成を提案し、意見交換を行いました。流域年表は、矢作川流域圏懇談会が設立された10年前からではなく、それ以前の自然災害、法律、世の中の動きにも配慮したものにしたいと考えています。また、冊子は流域圏懇談会の設立から現在までの活動について、流域市民に分かりやすく整理されたものとして取りまとめます。そのためは、どのような体制で制作するのが望ましいか、参加者で意見交換を行いました。



流域年表作成案(海部会のイメージ)

2. 流域圏担い手づくり事例集について



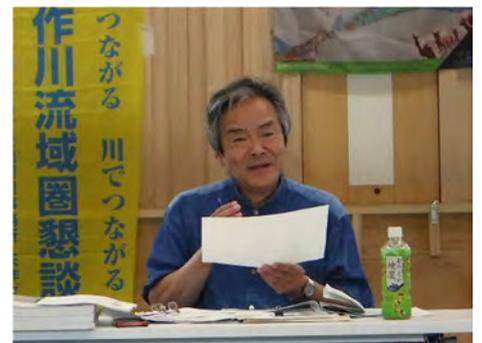
これまでに4冊の山村再生担い手づくり事例集(2013~2016)、2冊の流域圏担い手づくり事例集(2017~2018)を作成するため、持続可能な流域づくりに関わる102団体取材してきました。また、2017年度からは、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広げることをめざして「事例集交流会」を2回開催してきました。事例集の作成や交流会の開催は、一定の成果を得たものの、今後の展開や事例集の活用方法に関する課題も見えてきました。そこで、今年度は新たなヒアリングを行わず、これまでの活動成果を振り返り、今後の方向性について検討する年としたい考えです。また、その成果を、懇談会10年間のまとめにも盛り込みたいと思います。



3. 矢作川流域山村ミーティングについて



山村ミーティングでは、現在「矢作川流域林業担い手100人ヒアリング」と「矢作川感謝祭」の2つに取り組んでいます。そのうち、100人ヒアリングは、昨年半分以上のヒアリングを終え、代表的なメンバーを集め、夜明かしの座談会を行いました。さまざまな現場の生の声を聴くことができましたが、驚いたことに、ヒアリングの成果は上司ではなく、仲間に見せたいというものでした。秋にかけて引き続き意見の収集を行い、報告会と懇親会を開催したいと思えます。報告会について、何か良いアイデアがあればご提案をお願いします。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインでは、以下に示す内容で進めています。

- ①今年度の木づかい推進「スギダラ・キャラバン」は、現時点で46箇所の実施を決定しています。年々増加しており、世の中のニーズを感じています。
- ②安城市の小中学生を対象とした野外教室では、茶臼山高原の水源地の森を使って木づかい推進を行っています。今後は木とアルミ(アルミを使用することで軽量化することができる)を用いたどこでもシリーズを展開したいと考えています。
- ③現在、根羽村では農泊推進事業を進めています。我々は、徳島県上勝町を訪問し先進事例を学ぶとともに、竹灯籠づくりや林内のヨガ等もプログラムに含めたいと考えています。特に根羽ROCK、木の階段づくり、ウッドデッキは、この地域の特色になると考えています。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山部会のこれまでの成果のとりまとめ手法の検討

《流域年表について》

- ・ 2000年の東海豪雨(恵南豪雨)がきっかけで森の健康診断が誕生した。実は、海の健康診断がその2年ほど前に誕生していた。はじめは、貧酸素塊調査という名目で、研究者の下で市民が調査をするという構図になっていた。しかし、それでは市民目線の自発的で楽しい活動にはならないと思い、海の健康診断を提案した。年表を整理することは、社会的背景との因果関係を見るのにとっても効果的だ。(丹羽)

《冊子について》

- ・ いつまでに誰がやるかを決める必要がある。山部会は回を含めて4回しかなく、別にWGを立ち上げたほうが良いと思う。森の健康診断、矢作川水系森林ボランティア協議会の10年誌にはどれくらいの時間をかけたか。(洲崎)
 - ▶ 毎月1回定例会を行い、3時間程度の議論を行った。原稿が集まらない時は、座談会を録音して原稿にした。どの会にも、事例集の制作に関わるライターの浜口美穂氏がとりまとめを行った。(丹羽)
 - ▶ 是非、編集委員会を立ち上げ、浜口氏にとりまとめをお願いしたい。(洲崎)
- ・ 山川海の座談会を入れると良いと思う。(洲崎)
- ・ 今日は大変重要なことを議論している。事務局からの受け身で作るのか、矢森協の冊子のように自発的に作るのかで成果は大きく異なると思う。着地点をしっかり決めないと、どっちつかずのものができ上る恐れがある。(蔵治)
- ・ これまでに流域圏懇談会に関わった人を対象にヒアリングを行い、思いをまとめてはどうか。(浅田、丹羽)

自薦他薦により、編集委員として浜口氏(山部会)、洲崎氏(山部会)、近藤氏(海部会)、高橋氏(海部会)の4名が決定し、月1回のペースで懇談会の成果をとりまとめることになりました。編集委員会で話し合われたことは、各部に報告するとともに、地域部会での意見をフィードバックしたいと考えています。(※翌6/23事例集交流会決定事項)

●流域圏担い手づくり事例集

- ・ 事例集の製本を中綴じにすることで、印刷代が安くなる。今後の増刷はこの方法で行いたいと思う。(洲崎)
- ・ 昨年度の事例集の中に、新聞記事が含まれており、出版物とWebでの掲載に対して使用料が発生する。特にWebへの掲載料は毎年発生することから、今後は新聞記事の掲載は避けるようお願いしたい。(蔵治)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・ 流域の森林組合員を集めるからには、何か主題となるテーマが欲しい。100人ヒアリングの中でポイントとなるキーワードをお願いできればと思う。また、ミーティングでは必ず懇親会を設けてほしい。(今村)
 - ▶ 林業技能員には、自分をデザインしたいという思いが非常に強いことがわかった。まだまだ学びたいという要求にこたえる集まりにしたい。9月の矢作川感謝祭2019は、そんな集まりを想定していたが、あまり落ち着いて話す場所がないので、別立てで、ミーティングの機会を設けたいと考えている。(丹羽)
- ・ 流域の森林組合員が、一堂に会して発表をするのはまだまだ早いのかなと感じていて、まずは地域ごとに発表の場を設けて、その後にフィールドワークショップで先進事例を見ながら意見交換をするようなイメージで、徐々に拡大する必要があると感じている。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・ 次回のWGでは、フィールドワークとして根羽ROCKを出席者で体験してはどうか。(洲崎)
 - ▶ 実体験していただき、農泊推進事業の中で活用できるか、率直な意見をいただきたい。(今村)
- ・ お土産を持ち帰ることができるようなシェア農園のような構想はあるのか。(浅田)
 - ▶ 有給農地が50haあるので、まずはトウモロコシから取り組みたいと考えている。(今村)



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、7月19日(金)~20日(土)根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 山部会編 vol. 2



発行日：令和元年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第52回山部会WGを開催しました！

7月19日(金)に第52回山部会WGが根羽村にて開催されました。今回は、平成24年から山部会が取り組んできた「山と山村」「森林」という2つの課題に対する4つの解決手法(流域圏担い手づくり事例集、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドライン)に関する進捗報告と意見交換を行いました。また、懇談会発足10年のとりまとめに関して、流域圏年表の素案に対する意見交換を行いました。また、矢作川感謝祭の活動内容を情報共有しました。



日時：令和元年7月19日(金) 13:30~16:30

場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」 やまあいホール

参加者：13名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について

《事例集交流会 2019 の開催》

流域圏担い手づくり事例集の作成によって育まれた人のつながりをより深め、広めることをめざした事例集交流会が、去る6月22日(土)に岡崎市で開催されました。30名が参加し、大変有意義な議論が行われました。

《流域圏懇談会 10年史編集委員会の始動》

事例集交流会の話し合いの中で、本懇談会が設立10年を迎えることから、これまでの成果を振り返り、今後の方向性を考える年にしたいという意見が出ました。今年度は、事例集の作成は行わず、10年間で得られた内容を考察します。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

豊田市では、「森林・林業に関わるさまざまな人材の育成と一般市民への普及」を目的として、公開講座(とよた森林学校)を開催しています。以前は、信州大学名誉教授である島崎先生(初代森林学校の校長)とお弟子さんが講師を勤めていましたが、校長が交代したことをきっかけに、豊田市で講師を育成させる必要が生じました。現在、豊田市だけではなく流域の森林組合に対して声を掛け、講師の育成を通して、流域内交流を模索しています。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

《水源の森林づくりガイドブック(林野庁治山課)》

このガイドブックは、水源の森林づくりの活動が適切かつ有益となるよう、最新の研究成果や地域の事例をもとに作成されたものです。特徴としては、「森林は水をためると同時に水を消費することを明記したこと」。及び「水源涵養機能の効果があらわれる間伐率を科学的根拠として5割(保安林の間伐率の上限35%)を明記していること」です。また、全国の先進事例の中には「新・豊田市100年の森づくり構想」が掲載され、目標林型に向けた施業方法や人材育成を示しています。

《水源涵養機能の高度発揮に向けた水源林造成事業のあり方》

水源涵養機能を高度に発揮する造成方法について、主に造成事業を行う林野庁整備課が科学的根拠を示した資料です。この資料の中では、針葉樹と広葉樹の蒸散量の違い、長伐期化による水源涵養機能の向上、海外の植林密度による課金方法の違い、目標林型に向けた具体的森林施業体系の確立に地上レーザ計測を活用することに着目しています。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

《木づかいガイドラインの作成》

- ① 昨年度末に依頼した流域自治体に対する木づかいの事例と取材協力について、今後は呈取表で整理したい。
- ② 自治体以外で木づかいの事例があれば収集したい。
- ③ 懇談会設立10年における木づかい推進の実践事例をふまえたガイドラインの構成を以下のように考えている。
 - 1) 流域内で実践されている木づかいの事例紹介
 - 2) 流域市民(大人から子どもまで)の木づかい推進の思想と取り組み
 - 3) 木づかいライブスギダラキャラバンについて

5. 懇談会発足10年のとりまとめと流域連携イベントについて

《流域圏年表》

流域圏年表は、地域部会(山・川・海)と市民部会に共通するとりまとめの手法として、全体会議において承認されたものです。本日は、山部会に重点をおいた年表の1950年(昭和25年)以降について一覧を作成しました。主な項目としては、①社会(流域人口、産業、公害)、②行政(法律の制定等)、③自然災害(全国規模と流域規模)、④流域の動き(公的機関、企業・市民団体)、⑤木材生産(木材価格の推移)として整理しています。

《矢作川感謝祭 2019 の活動内容》

9月8日(日)に行われる矢作川感謝祭では、懇談会の活動について洲崎さんにご報告いただくとともに、流域圏に関するクイズ大会を実施し、参加する市民に対して矢作川について啓発し、流域関連のグッズ(下敷き)を配布する予定です。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集

《流域圏懇談会 10 年史編集委員会》

- ・ 開催案内や参加形態など懇談会員への周知はどのようにするのがよいか。(事務局)
 - ▶ 熱意のあるメンバーが勝手にやっているということにならないためにも、参加者の公募は必要かと思う。ただし、想定外に大勢の人が参加を希望するなど、収集がつかなくなる覚悟も必要だ。(洲崎)
 - ▶ 編集委員を浜口氏(山部会)、洲崎氏(山部会)、近藤氏(海部会)、高橋氏(海部会)の4名にすることは、山川海合同でやっている事例集交流会で決まったことなので、部会員への募集はサポート的立場のオブザーバーとしての役割を担っていただければよいのではないか。(蔵治)
- ・ 矢作川流域圏懇談会と事例集のメーリングリストで周知したい。方向性は第一回編集委員会で議論する。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・ 間伐ボランティア初級講座の講師は、豊田森林組合の6、7人が担うことになっている。これは前半を豊田森林組合、後半を流域の4つの森林組合が行うことにしてはどうかという意味である。(蔵治)
- ・ 学びの場と交流の場を林業素人のプロが先頭になって流域の森林組合に呼びかけることにしたい。根羽村森林組合ではどのような動きがあるか。(丹羽)
 - ▶ 我々もいろいろなテーマを持って勉強会をしようとしているので、今の提案は、その連携版であると感じた。個々の森林組合を逸脱して、共通のテーマがあれば、お互いに刺激になると考えられる。矢作川流域の山を考える実践者たちの集まりとなればよいと思う。(今村)
- ・ とよた森林学校を核として、流域内交流の研鑽の場づくりにつなげるのが一番よい戦略だと思う。(丹羽)
 - ▶ とよた森林学校の講座に、流域圏講座というものがあるのもよいと思う。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン

- ・ 昨年制定された森林経営管理法では、森林環境譲与税を原資として豊田市スタイルの森林管理を全国の市町村で行うことになった。そのため、豊田市が現在経験している失敗も、きっと全国で繰り返されるであろう。(蔵治)
 - ▶ 豊田の成功例として全国に伝えるべきことは、森づくり委員会の役割である。制度に疑問を生じたとき、臨時会議を50回以上も設けて議論を重ね、行政に働きかけたことだ。それが伝わらなければ、失敗する。(丹羽)
- ・ 森の健康診断では、林業関係者と研究者の協働によって、地域は大きく変わったと感じた。ガイドラインも同様に、現場作業員と研究者のやりとりが反映されるべきものだと思う。(丹羽)
 - ▶ 現場作業員が参照できる資料をつくるというのは、常に意識しながら議論してきた。作業員に参照されなければ絵に描いた餅にしかならない。作業マニュアルになればよいと考えている。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・ 事例収集の対象者について、流域圏担い手づくり事例集の取材対象団体を活用していただきたい。これまでに取材対象にした102団体の中には、森づくりと木づかいに取り組む団体が多く含まれている。例えば、自然観察、木工製品、薪づくりを行っている団体などがあったかと記憶している。縦軸に活動団体、横軸に活動内容を整理すれば流域の状況がわかり、WG等で議論できると思う。(洲崎)
- ・ 森林認証制度の中で希少種の生息分布の図示が明記されているが、根羽村の茶臼山周辺の調査は自分が行っているため、情報提供が可能である。(高橋)

●懇談会発足10年のとりまとめについて(流域圏年表)

- ・ 記載内容が愛知県に偏っているため、矢作川流域である長野県、岐阜県のデータも加えること。(蔵治)
- ・ 西暦2000年を境にページを分けて、東海豪雨(恵南豪雨)以降を少し具体的に示してはどうか。(洲崎)
- ・ 矢作川とつながりの深い関係団体、森林組合の発足や統廃合については、漏れなく示してほしい。(今村)



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、10月25日(金)~26日(土)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 山部会編 vol.3



発行日：令和元年 11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第53回山部会WGを開催しました！

10月25日(金)に第53回山部会WGが豊田市稲武地区にて開催されました。今回も「山と山村」「森林」という2つの課題に対する4つの解決手法(流域圏担い手づくり事例集、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドライン)に関する進捗報告と意見交換を行いました。また、懇談会発足10年のとりまとめとして、10年誌編集委員会の活動進捗、流域圏年表の作成状況、他部会に紹介したい事柄や場所に関する情報共有と意見交換を行いました。



日時：令和元年 10月25日(金) 14:00~17:00
場所：豊田市生涯学習センター 稲武交流館 第一研修室
参加者：15名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について

今年度は事例集の作成を休止し、流域圏懇談会10年と事例集の振り返りの冊子を作成することになりました。編集委員は浜口美穂氏を委員長とし、各部会の有志(川：近藤朗氏、海：高橋伸夫氏、山：洲崎燈子氏、事務局ほか)で構成されています。8月より月1回のペースで開催され、これまでに2回(第1回：8月3日、第2回：9月6日)開催しました。10年誌の構成としては、序章として「はじめに」、第1章として「10年のあゆみ」「矢作川流域圏懇談会とは」「ポイント抜粋年表」「地域部会10年の振り返り」「流域連携の振り返り」「事例集の振り返り」、第2章として「キーパーソンヒアリング」「座談会」、第3章として「今後に向けて」、結びとして「おわりに」を考えています。年度内に全体会議で披露できる資料を作成することを目的としています。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

先日開催された矢作川感謝祭では、昨年よりも林業関係者と話す機会が増えました。林業の作業班同士の交流も目的の一つであると考えているので、イベントの規模が大きすぎても難しいと感じています。また、矢作川流域林業担い手100人ヒアリングは、昨年夏以来、少し足踏みをしています。前回林野庁のガイドラインが紹介されて、それを流域レベルで作成すれば、おのずと待遇や給料の問題について踏み込むことができ、課題解決へのアプローチが見えた気がしました。豊田市役所稲武支所副支所長の鈴木様に、木の駅プロジェクト設立に向けた動き、稲武地区の9割を占める森林のうち、3分の2が財産区であることの利点等についてご報告いただき、懇談会員との意見交換を行いました。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

以下の3つの項目について、話題提供をいただき、意見交換を行いました。

《流域市村の間伐面積の推移》長野県域の間伐面積が低下し、全体としても過去最低の数字になりました。しかし、2019年度から森林環境譲与税が配分されるため、状況が変わる可能性があります。今後も間伐面積の推移を蓄積していきたいと考えています。

《水源の森林づくりガイドブック》林野庁治山課が、最新の研究成果や地域の実例をもとに森林づくりのガイドラインを作成しました。地域の実例では、「新・豊田市100年の森づくり構想」が掲載されるなど馴染み深いものになっています。

《岡崎市の森づくり協議会》この協議会は、岡崎市森林整備ビジョン10年計画のリニューアルのために設立されるものです。協議会員には川上より森林所有者、川中より木材加工業者等、川下より住宅建築業者が選出されるなど、岡崎産の木が適正な価値で商品化したいという声が反映された協議会になるものと期待されます。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

以下の項目を中心に話題提供をいただき、意見交換を行いました。

《水源の森林づくりガイドブックの活用》安城市と根羽村は、平成3年から茶臼山北斜面で分収育林事業を行っています。その提携が令和3年に切れるため、今後のビジョンを話し合うのにこのガイドブックを活用しています。また、森林組合の技能職員にも配布して、矢作川源流の森林施業のあり方を考えるツールとして役立てています。

《長野県と都市部が連携した豊かな森づくり》森林環境譲与税の活用として①森林整備、②森林整備を担うべき人材の育成、③森林の公益的機能の普及啓発、④公共施設への木材の利用が示されています。長野県内の市町村と他県の連携事例について、情報共有を行いました。

5. 懇談会発足10年のとりまとめについて

今回は、10年誌編集委員会の進捗状況、流域圏年表の作成状況、他部会に紹介したい事柄や場所について、事務局より状況報告及び話題提供を行いました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会の活動報告)

- ・事例集の取材団体は合計102団体となっている。各団体の設立の要因には、市町村合併があるものと思われる。合併によって、小さなコミュニティが消失して、それを補完するように団体が設立する例がみられる。一度、流域圏年表と併せて、これらの団体の活動状況を整理したいと考えている。(近藤)
- ・取材団体とは、距離や嗜好などの物理的要因から出会うことが難しい中で、交流会の開催によって結び付くことができる。これは大変有意義なことで、面白い企画である。林業関係者の交流の場としても利用できると思う。(今村)
 - ▶事例集交流会のスタイルを変える年があるのは有意義だ。報告会という敷居をさげて、関係者が参加しやすい雰囲気を作るのも大切だと感じた。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・管内の森林組合では、新しい人材は入ってくるが、仕事を覚えてこれからという時に辞めてしまう。おそらく、給与と待遇がネックになっているのだと思う。(大重)
 - ▶待遇や労働条件について会合をもったとしても集まりにくいと思う。一方で、森林づくりのガイドラインという名目で会合を開けば、自然に給与と待遇に関する話になると思う。(丹羽)
- ・稲武地区の取り組みに「集落営林」が出てきたが、おいでん・さんそんセンターでも旭地区で半農半林塾を開催したり、集落単位で山を守る人材を育成したりしている。また、情報交換をお願いしたい。(洲崎)
- ・稲武地区は、山林の3分の2が財産区となっている。財産区とは、自治法で特別地方公共団体といって山の固定資産税が免除される。また、移住と同時にその財産区から得られるものを取得する権利も生じる。(鈴木)
 - ▶岡崎市の宮崎財産区も同様だ。新規移住者にも、もともと住んでいた人々と同様に山を使う権利が生じる。(眞木)
 - ▶以前から稲武には財産区という非常に大きなポテンシャルがあると予想していた。いよいよメリットとして活かされる時がきた印象だ。財産区ではない個人財産の場合、地域全体が動くことは難しいと感じている。(蔵治)
- ・地域の高齢化やしがらみがある中で、自らの営林には限界があると感じている。そんな中で希望と考えているのは、しがらみのないよそ者だ。地域を活性化するためには、よそ者であろうと定住者がいることが条件だ。(鈴木)
 - ▶よそ者と言えば額田の唐沢晋平氏だ。よそ者が木の駅プロジェクトを立ち上げ地域の活性化に貢献している。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン(岡崎市の森づくり協議会について)

- ・岡崎市は、森林環境譲与税について、何か話は出ているのか。(今村)
 - ▶今回設立された「岡崎市森づくり協議会」の中で、その使い道について議論されるものと思われる。(蔵治)
- ・岡崎市では、もともと経済振興部の中に林務課(経済林の観点)があり、環境部の中にも森林企画担当(環境や治水の観点)があった。今回これらを一つにして15人規模の経済振興部森林課となった。初年度は3,200万円の森林環境譲与税の配分があるそうなので、協議会の指導を仰ぎながら、有効に活用して欲しい(眞木)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・木づかいに関するどこでもシリーズで、前回の根羽村のWGでは、「どこでもサウナ」を体験いただいた。今後は、サウナの周りで、ゲーム、婚活、山村ミーティングを行うなど、その活用を模索したい。皆さんはどう思われたか。(今村)
 - ▶皆の笑顔が満足度を表している。60℃くらいであれば皆が楽しめる。大変感動して購入を決意した。(山本)
- ・長野県の森林環境譲与税活用の提案というのは、都市の自治体に対してPRを行うということか。(蔵治)
 - ▶現在、東京都の墨田区や府中市に対して行っているところだ。(今村)

●懇談会発足10年のとりまとめについて

- ・流域年表については平成の市町村合併、木材価格の出どころ、千年委員会などの団体の設立は加えて欲しい。(洲崎)
- ・他部会に紹介したい事柄や場所については、次年度の勉強会に反映される重要な議論になるはずである。この項目については、次回のWGでしっかり時間を割くとよいと思う。次回までの宿題にしたい。(蔵治)



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、12月6日(金)~7日(土) 恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 山部会編 vol. 4



発行日：令和元年 12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第54回山部会WGを開催しました！

12月6日(金)に第54回山部会WGが恵那市にて開催されました。今回は「山と山村」「森林」という2つの課題に対する解決手法のうち、主に山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインに関する進捗報告と意見交換を行いました。また、懇談会発足10年のとりまとめとして、10年誌編集委員会の活動進捗(キーマンヒアリングや座談会の開催)、流域圏年表の作成状況、他部会に紹介したい事柄や場所に関する情報共有と意見交換を行いました。

日時：令和元年 12月6日(金) 14:00~17:00

場所：HYAKKEI(百経)

参加者：21名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 10年誌編集委員会の取り組みについて

8月以降、月1回のペースで編集委員会を開催し、11月の第3回編集会議で、以下の4つの項目が決まりました。

- (1) 流域年表：座談会のネタとなるもので、ただの年表ではなく、読み物として流域の人の動きがわかるものとする
 - (2) 流域圏懇談会10年のふりかえり：山・川・海・市民の各部会の座長に10年の活動内容を執筆いただく
 - (3) キーパーソンヒアリング：地域部会や市民部会でキーとなった人や事務局のOBの20名程度にヒアリングを行う
 - (4) 座談会：キーパーソン等が一堂に集まり、話し合った内容を文字で残す
- これらを10年誌として、来年8月を目標に公表したいと思います。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

以下の3つの項目について、話題提供と意見交換を行いました。

《矢作川感謝祭・矢作川流域林業担い手100人ヒアリングの進捗状況》矢作川感謝祭は森林組合の恒例行事になりつつあります。また、100人ヒアリングの進捗状況については、1月末のまとめの会で報告したいと考えています。

《奥矢作森林塾の取り組み》(話題提供：奥矢作移住定住促進協議会会長 大島利光氏)

地域の活性化のため、1ターンを積極的に受け入れ就労支援をしています。定住の条件として、林業と農業で生計を立てられるようにする必要があります。多方面からの支援の結果、36軒の空き家がすべて利用されることになりました。

《夕立山森林塾の取り組み》(話題提供：NPO法人夕立山森林塾 理事 岡田敏克氏)

夕立山森林塾では、ヨーロッパの林業の考え方や長野県での林業の取り組みについて研修を行いました。林業に関する勉強会や技術支援を行いながら、恵那の木材を活かしたサービスや商品化を模索しています。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

以下の3つの項目について、話題提供と意見交換を行いました。

《岡崎市森づくり協議会》岡崎市では、森林整備ビジョンが策定されて10年が経ったことから、2年計画の森づくり協議会を立ち上げ、改定につなげたいとしています。今回は第1回の協議会の内容を報告します。

《山本源吉(旧額田郡宮崎村村長)の実績について》山本源吉は明治時代に、1000haに散在した村有林を住民の反対に遭いながらも1箇所に52haに集約し、効率的な森林整備の先駆けを築いた。

《恵那市の森林環境譲与税の使いみちについて》(話題提供：岐阜県恵那農林事務所森林保全課課長 小島徳文氏)

2019年度から国の森林環境譲与税が各県に配分されます。恵那市では森林整備検討委員会が設置され、使いみちについて検討が進められています。計画段階として恵那森林組合、恵南森林組合、奥矢作森林塾の3つの事業体にモデル地区になってもらい、意向調査を実施しました。山に対する関心が低いためか出席者は各地区の住民の2割から5割にとどまり、意見も市への委託が最も多い結果となりました。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの内容について、以下の項目案が情報共有されました。

- ①思想編：木づかいガイドラインとは/森林組合の存在意義とその方針・取り組み/幼少・青年期からの自然体験・木との触れ合い原体験の重要性について/木材利用促進法とは
- ②実践編：「木づかいライブ スギダラキャラバン」の実績/身近な生活空間を木のアイテムにより豊かにする試み「どこでもシリーズの製品化」
- ③事例編：豊田市・岡崎市・根羽村等・流域圏担い手づくり事例集からの取り組み事例紹介/市民・産・学・官の取り組み事例表からの紹介
- ④森林環境譲与税の活用について：自民党政務研究会への提言/参考になる森林環境譲与税の使いみち事例

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●10年誌編集委員会の取り組み

- ・矢作川流域圏懇談会で関係した人物の相関図については、大変興味深い反面難しいと思う。(丹羽)
 - ▶ 全部を図化することは大変難しいと思う。特に M-easy の戸田社長などは複雑なネットワークの中央に位置すると思うが、その辺を一つの絵にするとわかりやすいと思うし、木の駅プロジェクトの関係を入れることで、広がるものと考えている。(洲崎)
- ・各部会を座長が振り返ることになっているのだが、どのような内容を盛り込むべきかご意見をいただきたい。(蔵治)
 - ▶ 山部会の出発点の考え方を共有いただき、地域持ち回りの会議にしたことを是非含めていただきたい。(洲崎)
 - ▶ 地域持ち回りの上、毎回懇親会を開き、参加者の心を開きながら勉強になる。このようなスタイルにしたのは、大変画期的であり、参加者のモチベーションが上がるものと思われる。このことにも触れていただきたい。(今村)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・森林施業中の留意事項については森林認証の取得有無にかかわらず、どの森林組合でも必要な事項である。100人ヒヤリングの中では、是非そのような観点についても議論いただきたいと思う。(今村)
 - ▶ 技能職員は、チェーンソーや機械の扱いはできるが、この山をどう仕立てるかという大きなビジョンは持てない状況だ。総合的なフォレスターの育成が必要だと感じている。(丹羽)
 - ▶ わけがわからず、何か作業だけやるというのは面白くない。それではやり甲斐、生き甲斐が生まれにくい。(山本)
 - ▶ 森林認証を取得すると環境に配慮した資材を使用するようになる。ドイツでは作業の目的を丁寧に教えてくれるので、フォレスターだけでなく、技能職員も作業の目的を説明できる。(城田)
- ・根羽村も空き家の数が50軒くらいある。それを解決する手段を教えてください。(今村)
 - ▶ 市の補助金の引き上げに加え、東濃の木材を利用して安価にリフォームができる。そのうえ、登記などの事務手続きも代行している。古民家のリフォームから登記までトータルで支援していることが大きいと思う。それから、移り住んだあとの就労支援だ。現在、農業と林業で生計が成り立つ方法を模索している。(大島)
- ・夕立山森林塾では、林業体験を行う際に、どのような募集方法をとっているか。(今村)
 - ▶ チラシも配ったのだが、やはり Facebook をはじめとする SNS の力が大きかったのだと思う。(岡田)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン

- ・山本源吉が成し遂げた村有林の集約はどんなメリットがあったのか。(今村)
 - ▶ 県は補助金を交付することで林道整備や造林を進めたかった。整備を進めるためには、土地の効率的な集約が必要だったのだと思う。(蔵治)
- ・次回、岡崎で山部会 WG を行う際は、この土地が現在どうなっているか確認したい。
 - ▶ そうしたい。同時に当時策定された森林整備に関する100年計画という冊子も紹介したいと思う。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・木づかいガイドラインとは何かということで、「矢作川流域の中で森林を保全しながら活用し、上下流が連携する」ということを念頭にしている。また、木づかいガイドラインに示される四つの項目のうち、『①思想編』を最初に位置付けるのは、サブタイトルにも示したように「思想がなければ木は使われない・思想がなければ流域連携は成り立たない」というところにある。(今村)

●他部会に紹介したい事柄と場所について(次年度の勉強会に向けて)

- ・日常生活で森林との接点が少ない中下流の人にとって、間伐の意義が理解できない。そのため、放置人工林の問題についても理解が低いと感じている。(山本)
 - ▶ 10年経っても流域の課題だと感じている。今では間伐が進み、観察に適した放置人工林は極めて少ない。(蔵治)
- ・山部会のもう一つの柱は「人と山村の問題」なので、それを端的にわかる訪問先はないものか。(蔵治)
 - ▶ 地域再生をめざしている「つくラッセル」はどうか。(洲崎)
 - ▶ 串原の移住定住の取り組みを見学してはどうか。なお、海に生きる人々の関心事は「砂」だ。先日的小笠ダムでの勉強会でもダムに堆積する砂をどう下流に運ぶかが課題であった。矢作ダムの見学も加えてはどうか。(高橋)
 - ▶ 矢作ダムの見学のあと、三河湾の砂が欲しい場所を歩いてはどうか。(洲崎)
- ・森林組合を知らないという話がでた。根羽村森林組合を見学することで、いろいろな部分が学べると思う。懇談会関係者がどこでもシリーズに触れるとよい。(蔵治)



今後のスケジュール(予定)

第10回山部会「まとめの会」は、1月28日(火)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 山部会編 vol.5



発行日：令和2年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第11回山部会まとめの会を開催しました！

今回は、懇談会設立10年の山部会のふりかえりを行うとともに、次年度の活動目標について議論しました。ふりかえりの一つ目として、蔵治座長より、山部会の設立時からの歩みを整理いただきました。その上で、当時の課題に対する進捗状況について情報提供をいただきました。つづいて、丹羽副座長より山村ミーティングの進捗状況と森づくりガイドラインの果たす役割についてご提案いただきました。これらの話題提供をふまえ、次年度の活動目標について話し合いました。最後に、愛知・川の会の近藤事務局長より、22世紀奈佐の浜プロジェクトの近況（担い手づくり）をお話いただきました。



日時：令和2年1月28日（火） 13:00~17:00

場所：豊田市職員会館第一会議室 参加者：19名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 10年のふりかえりと今後の活動について（話題提供①：蔵治光一郎座長）

蔵治光一郎会座長により、10年誌に掲載する山部会のふりかえりをご紹介いただくとともに、これまでに得たこと、依然として課題に残ること、今後の展望を整理いただきました。主な内容を以下に示します。

- 河川整備計画を策定（平成21年7月）するにあたり、上下流のさまざまなメンバーが集まって組織された団体である。
- 河川整備計画策定の1年後にこの矢作川流域圏懇談会が設立され、当初は市民会議の中に山部会があった。
- 山の問題は、山に生活拠点を置かない人（流域市民・学識者・行政機関）の意識の違いである。それをいかに共有することができるか、これが課題だと意見交換を行った。そこで、議論を重ね『出発点「矢作川の恵みで起きる」の共有を』を策定した。「山と山村」「森林」に関する課題を抽出し、望ましい未来のために「山村再生担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つの柱で議論を重ねてきた。
- しかし、課題解決にはほど遠いと感じている。これまでの議論により「相互信頼関係に基づく人間関係」は蓄積されてきた。今後は、流域に生きる人々が、お互いのライフスタイルに共感し、リスペクトしながら連携することだと感じている。このようなことを目的とするならば、山部会は益々重要な役割を担うと考えている。

2. 山村ミーティングの進捗状況と新たな提案について（話題提供②：丹羽健司副座長）

丹羽副座長より、矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの進捗状況と今後の取り組みの提案をいただきました。主な内容は以下の通りです。

- 森の健康診断は、矢作川流域の人工林の豊かさや荒廃の実態を科学的に調べる（都市住民、山村住民、森林ボランティア、研究者、行政職員の連携）ことを目的としていた。今度は、山の森林で働く担い手たちの高い志や落胆の実態を調べることで、より健全な森づくりを心地よく進められる労働環境づくりに資することができると考えている。
- 林業就業者の若年者率は増加しているのに、中堅林業技術者が離職しているため、全体の従事者数は減少している。
- 森の健康診断から人工林の6~7割は不健康なのに、整備する従事者がいなければ、健全な森林は維持されない。
- 中堅林業技術者の離職原因は、危険な職業である一方、所得が低いことにある。
- 上記の対策として、「業界内交流と連携から始まる地域林業の再生」「現場林業技術者と市民が協働することによる森づくりガイドラインの作成」があげられる（課題解決のテーマの一つとなっている「森づくりガイドライン」との協働）。

3. 10年誌編集委員会の活動状況について

10年誌編集委員会の洲崎編集員に、現在の進捗状況を説明いただきました。主な内容は以下の通りです。

- 2月の全体会議ではパイロット版（試作品）を公開し、8月末ごろに完成版を発行する予定である。
- 構成としては「はじめに：流域圏懇談会とは」「第1章：流域圏懇談会の10年の歩み（組織図、流域図、活動年表、各部会のふりかえり）」「第2章：流域圏担い手づくり事例集の成果」「第3章：想いの源流を探るためのキーパーソンヒアリングの結果」「第4章：新たな10年へ」を予定している。

4. 22世紀奈佐の浜プロジェクトについて（話題提供③：愛知・川の会 近藤朗事務局長）

奈佐の浜プロジェクトは、伊勢湾地域を発生源とする流下ごみに対し、その改善手法を検討する目的で、今から8年前に設立された。当初は、流下ごみの現状を把握するため、愛知岐阜三重のさまざまな場所をまわった。2012年からの8年間に16回の現地活動を行い、のべ4000人にご参加いただいた。今年度は長良川100名と奈佐の浜200名のイベントを行った。最近では、次世代の担い手を育成する場と考えており、参加者のうち半分以上を大学生以下の若者が占めている状況である。また、現在では拾い集めることのできないマイクロプラスチックの問題にも取り組んでいる。2020年は長良川国際会議場で全国大会（8月8~9日）を実施する予定である。是非、流域圏懇談会の関係者にもご参加いただきたいと考えている。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●10年のふりかえりと今後の活動

- ・10年のふりかえりを拝見したが、懇談会の原点が的確に示されており、途中から入会した自分にとって、非常にわかりやすいものであった。(山本)
- ・私が研究フィールドとしているモンゴルでも、遊牧民が都市で生活するようになり、山部会と同じような光景がみられる。一方で、ドイツは自然破壊からの再生を経験し、人工的な森の中で世代を超えた人々が共有している。まさに、先ほど今村さんが言われた子どもたちへの教育の場、交流の場、体験の場にしたいという意向に近いと思われ、流域圏の未来の持続可能性を考えるうえで、非常に重要な位置づけになると感じた。(城田)
- ・東海豪雨では、流木がダムを乗り越えず止まったが、もし越流していたらどうなったか。(今村)
 - ▶ おそらく、下流側の中部電力のダムは、オーバーフローしていたと思われる。宮川では、台風によって21,000m³の流木が三瀬谷ダムを乗り越えて、伊勢湾に流出したことがある。その流木は知多半島まで達した。(蔵治)

●矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの進捗状況と新たな提案

- ・矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの調査結果の活用方法としては、OJTを一つの森林組合とする必要はないということ。例えば、架線の特異な恵南森林組合、人材交流の盛んな岡崎森林組合、森づくり会議など先進的な動きのある豊田森林組合とか、英知を集めて議論をすればヒヤリングの成果が活かせるのではと思う。(今村)
- ・恵那農林事務所の管内でも、中堅林業技術者の離職で頭を抱えている。給料の問題は最も大きい要因だ。また、家庭を持つと、家族から安全な仕事に就くよう説得され、離職をするケースがみられる。(小島)
 - ▶ サッカー界で選手のレンタルが行われているが、森林組合にも導入できれば素敵だと思う。もっと気楽に流動していく、流通していく、いろいろなものを受け入れて、自ら仲介できるようなものがないのか、これはまさに最初にめざした山村ミーティングだと思う。(丹羽)
- ・組合長として、ヒヤリング結果を重く受け止めている。組合の経営も苦しいが、最近少し変わってきたと思うのが、職員が自発的に動き、助け合うようになったことだ。やはり、組織の中の輪が大切だとつくづく感じている。(眞木)
- ・このヒヤリング結果を活かすため、森づくりガイドラインに反映することを提案する。(丹羽)

●10年誌編集委員会の活動状況

- ・10年誌の完結は次年度という解釈でよいか。(蔵治)
 - ▶ パイロット版を2月の全体会議に配布して、設立10年となる8月に完成版を公開する予定である。(洲崎)
- ・完成版の公開に関しては、各部会を超えた報告の機会があると良いと思う。(洲崎)

●22世紀奈佐の浜プロジェクト

- ・東海3県から生じた川ごみは、海流からいってどこに漂着しやすいのか。(今村)
 - ▶ 答志島(奈佐の浜)など、海域が急に狭まった場所で、海流に向かい合った浜である。方角でいうなら北側にたまり、南側には溜まらない。(近藤)
- ・答志島の活動は、地元三重県の助成金を活用させていただいた。岐阜県は、森林環境税のメニューの中に「清流長良川」という項目があり、答志島の活動にも充てることができた。(近藤)
- ・学生が主体的に動くようになったのは素晴らしい。この懇談会も大いに参考にする必要がある。(洲崎)
 - ▶ 学生に主体性を持たせたことで、1年で大きく変わった。この動きは懇談会の次の目標になると思う。(近藤)

●他部会に紹介したい事柄と場所について(山部会としての優先順位の検討)

- 第1希望：水源涵養モニタリング調査サイト(放置人工林)、 第2希望：つくラッセル(地域活性化事業)
第3希望：奥矢作森林塾(移住定住)→矢作ダム(土砂の問題)→三河湾(土砂の問題)



今後のスケジュール(予定)

第9回全体会議は、2月25日(火)に岡崎市の西三河総合庁舎で行います。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。





発行日：令和元年 8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第50回川部会WGを開催しました！

今年度最初のWGであったため、昨年度の活動について振り返りを行い、その後、3つのテーマに関する今年度の方針について意見交換を行いました。また、矢作川直轄管理区間における今年度の事業計画と越戸ダムで実施された置土実験について、情報共有を行いました。



日 時：令和元年 7月 30日（火） 14:00～17:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室

参加者：23名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 昨年度の振り返り



昨年度の活動について振り返りを行いました。特に、まとめの会でまとめた「もう少しでできたこと」、「できなかったこと」を改めて見返すことで、川部会の活動進捗状況を再認識しました。昨年度の全体会議であげられた「土砂に関する議論からの矢作川の望ましい像の提案」について検討していきたいと考えています。



2. 3つのテーマの方針について



◆本川モデル

関係機関（国交省や中部電力など）との意見交換を行う予定です。各機関において「いつ、どんな課題があったか」という情報の整理と、これまで取り組んできた土砂に関する議論を並行して行うことで、立場による土砂問題の捉え方の違いについて認識していきたいと考えています。



◆支川モデル（家下川モデル）

今年度は、家下川だけではなく、他支川にも着目したWGの開催を検討していきます。それに伴い、支川モデルへ名称を変更しました。支川で行われてきた多自然川づくりなどの河川改修について、情報共有をしていきたいと考えています。



◆地域連携モデル（地先モデル）

地域の人々と川との関係だけではなく、地域の人どうしの連携にも着目した話し合いを目指して、地域連携モデルへ名称を変更しました。今年度は、川部会の10年間の活動をとりまとめ、矢作川流域圏年表の作成を行います。また、他の部会が作成した流域圏年表と合わせ、最終的には矢作川流域圏懇談会の活動をまとめた冊子を作成していきます。



なお、今年度はこれまでと同様に3つのテーマの枠組みで話し合いを行っていきませんが、複数のモデルにまたがる話題も出てきています。来年度以降にテーマの設定を見直すことも視野に入れ、話し合いを行ってきたいと考えています。

3. 矢作川直轄管理区間における事業計画について



豊橋河川事務所が取り組んできた総合土砂管理計画の検討状況や越戸ダム下流の置土実験の進捗状況について、情報共有を行いました。今年度は約3700m³の置土が既に流出しており、今後のモニタリングの結果に期待が高まっています。また、矢作川下流部・中流部において、樹木の繁茂により氾濫の恐れのある区間で伐採が計画されています。今後も川部会WGの中では川部会メンバーが求める情報について共有を行っていきます。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●昨年度の振り返りについて

- ・もう少しで土砂に関する望ましい像の提案はできたと感じている。それには、もう少し詳しいデータが必要と感じているので、今後も関係機関から情報提供いただきながら話を進めていきたい。(内田)

●3つのテーマの方針について

《本川モデル》

- ・矢作川流域圏懇談会は必ずしも利害関係を調整する場ではない。しかし、市民の立場から矢作川がどうあるべきか議論をしている場であり、関係機関・組織の皆さんに参加いただくことが非常に重要だ。(内田)
- ・矢作川でダムがなくなれば豊田市は大変なことになる。一方で、土砂がダムに溜まり、下流では土砂が不足している。不足している場所に機械で直接土砂を運ぶなどの考え方も現状では必要だ。(高橋)
- ・3つのモデルに関連する課題として生物多様性があげられる。生物多様性にとって、陸地と関連付けた議論が必要である。だが、どのモデルにおいても水面より上の陸地に関する議論をしたことがないと思う。(山本)
 - ▶ これまでの議論の中で土砂が必要ということはある程度合意ができていると思う。今後は置土実験の結果とか、具体的な資料を基に議論を深められたらよい。(内田)
- ・これまで実施されてきた事業の結果に対して評価を行い、整理する必要がある。そこから、一番望ましい姿と比較して、場所ごとに今後の方針を検討すべきではないか。(光岡)
- ・関係機関が過去から現在までに抱えた課題について聞き取りを行い、整理してはどうか。土砂に関する議論と並行して取り組んでいくことで、立場による土砂問題の捉え方の違いが見えてくると思う。(近藤)
- ・農業や工業、生活用水への水の活用が増大している。水の使い方を考えることが生物の棲みやすい川づくりにつながると思う。その議論にはもちろん、中部電力も参加しなくてはならないと考えている。(橋本)
- ・明治用水頭首工の取水量等の情報が一般の人が容易に取得できるのか教えて欲しい。(鷲見)

《支川モデル》

- ・多自然川づくりなどの改修がどのように実施されてきたか、関係者に聞き取っていただきたい。(近藤)
- ・乙川は多自然川づくりというよりも河川空間の利用に関する事業に取り組んでいる。愛知県が管理しており、岡崎市より愛知県の事務局が出てこない細かい情報の提供は難しい。(杉田)
 - ▶ 乙川に着目して取り組もうとすると、地域連携モデルの内容と重なる部分がでてくるだろう。(近藤)
 - ▶ 3つのモデルの枠組みについては、次年度以降に考え直したほうがよい。(鷲見)
- ・男川の支川では、工事で切った岩盤を生き物が棲めるように改良しており、一つのモデルとなりうる。(高橋)

《地域連携モデル》

- ・流域圏年表の中に、矢作川河口堰の事業が中止になったことは記載するべきだと思う。(高橋)

●矢作川直轄管理区間における事業計画について

- ・置土実験について「オオカナダモの除去、付着藻類の剥離更新に着目」という文言があるが、土砂堆積や砂のモニタリングはしているのか。(鷲見)
 - ▶ 流れた土砂により、アユの生息環境を阻害するオオカナダモをクレンジングできないかということが大きな目的であった。しかし、流れた土砂により直下流の河床が高くなっては治水上問題があるため、河床の変化についてモニタリングしている。約3700m³の土砂ではほぼ影響がなさそうな状態である。(事務局)
 - ▶ 今後、流出土砂量に対する感度が少しでも見えてくると面白いと思う。(鷲見)
- ・一般の人にとっては、「河原ができるか」や「川の見た目の変化」、「浅場の形成」などについて検討していただくと総合土砂管理事業の効果がわかりやすいと思う。(内田)

今後の予定

■第51回川部会WG

日時：令和元年9月2日(月) 14:00~16:30 場所：安城市郷東川、安城市役所さくら庁舎会議室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 川部会編 vol. 2



発行日：令和元年 10月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第51回川部会WGを開催しました！

今回のWGでは、安城市が実施した郷東川（ごうひがしがわ）での多自然川づくりの現地視察を行いました。視察後は、多自然川づくりに関する意見交換を行うとともに、安城市が取り組んでいる水田貯留事業に関する話題提供をしていただきました。また、今年度の作成を目指している矢作川流域圏年表に関する意見交換も行いました。



日時：令和元年9月2日（月）14:00～17:00
会議場所：安城市役所さくら庁舎2階 会議室
参加者：20名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 郷東川の多自然川づくりについて



矢作川水系に属する準用河川の郷東川で安城市が取り組んできた多自然川づくりの現場を視察しました。平成6年～平成26年までに800mが整備されてきました。水辺の動植物が生息・生育しやすい空間をつくるために、石や木を利用した護岸や止まり木が整備されています。また、自然と人が触れ合うことができるよう、階段やベンチが設置されています。地元の町内会とは委託契約を行い、年2回の草刈りをお願いするなど、地域住民と良好な関係が築かれています。



2. 安城市の取り組みに関する話題提供



◆水田貯留事業に関して [話題提供者：安城市 神谷様]

安城市の矢作川の東側に位置する地域は、浸水被害が非常に多い場所となっています。この対策として、安城市では市域の約4割を占めている水田に雨水を5cm余分に貯留することで河川の水位上昇を抑える「水田貯留事業」に取り組んでいます。

(1) 水路流量調整方式

水田につながる水路の一番下流部にマスを設置し、ゲートの開閉具合により、マスから流れる流量を調整する方式です。水稻の生育時期はゲートを下げ、水路下流への流量を制限することで、水路の両脇に面している水田に雨水が貯留されます。一方で、転作時期は水田への雨水の貯留を控えています。



(2) 排水マス流量調整方式

一筆ずつの水田に排水マスと2枚の堰板を設置しています。1枚は通常時の耕作に必要な水位を維持するものです。その後ろに高い堰板があり、大雨が降った際は、通常時より高い水位まで雨水を貯留できる方式です。事業にご理解いただいた地権者の水田から随時実施可能なことは利点の一つです。



3. 矢作川流域圏年表について



前回のWGであげられた環境問題や流域内の公的機関の動きをまとめて、項目を整理しました。

今後は、川部会メンバーから年表に追加したい、あるいは追加すべきと考えるキーワードを募集し、それがどの時期にあたるかについて、WGの中で議論していきます。最終的に、川部会メンバーが求める年表を作り上げていく予定です。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●郷東川の多自然川づくりについて

- ・郷東川は川幅や水面の近さのバランスがとても良い。(近藤)
- ・河川整備事業による生物への影響を調査しているか。また今後生物調査を行う予定はあるか。(橋本)
 - ▶ 動植物が生育しやすい環境を目指して整備してきたが、調査は行っておらず、計画もない。(神谷)
 - ▶ もし、生物調査を行う場合は、川の中だけではなく周辺の農地とのつながりを考慮した調査を計画してほしい。そのような生物調査は、全国でも数少ない事例となるはずだ。(近藤)
 - ▶ 生物調査を強制されることで多自然川づくりを敬遠してしまう危険性がある。より多くの河川で多自然川づくりが実施されるためには、生物調査にとらわれないことも必要だと考える。(内田)
 - ▶ 愛知県もほとんど生物調査を実施していない。川は連続している環境であり、評価が難しい。(近藤)
 - ▶ 生物への影響の原因追及は難しいが、5年に一回など、定期的なデータの蓄積は必要ではないか。(光岡)
- ・景観を維持するために地域住民による草刈りを実施しているが、今後もこの体制は続けられるのか。(山本)
 - ▶ 町内会へ草刈りの契約更新に関する意向調査を毎年行っている。今のところ作業が不可能というような意見は聞いていない。また、地域住民は委託による収益を地元のイベントに使用するなど、楽しみの一つとして作業をしており、良い関係が築けている。(神谷)
- ・近自然工法により河川整備を実施した動機は何か。(牧内)
 - ▶ 当時は河川整備事業を実施するにあたり、自然を取り入れた整備を義務付ける取り組みが行われていたタイミングであった。また、地元住民からも要望があったため、近自然工法に取り組んだ。(神谷)
- ・今の郷東川に対して、地元住民から強い要望や目標などの意見は聞かれたか。(橋本)
 - ▶ 今のところはない。しかし、地元住民との接触機会が増えたことはよいことだと思っている。(神谷)
- ・地元住民との合意を得て、協力して取り組んできた河川整備事業というのは平成6年から始まったのか。また、他の川では同じような取り組みはあるのか。(山本)
 - ▶ 平成6年から20年近くかけて800mを工事してきた。地元住民の理解があったからできたことだ。ノウハウの継承をしたいが、安城市における他の川での工事は非常に少ない状況にある。(神谷)
- ・豊田市の岩本川で取り組まれている市民による多自然川づくりは、郷東川の事例に似ている。(近藤)

●安城市の取り組みに関する話題提供：水田貯留について

- ・これまでに13haの場所で工事が完了したということだったが、全体からしたらまだ少ないのか。(光岡)
 - ▶ まだまだという状況である。一方で、金額面からいうと、平成28年に公園の地下に5000立米の調整池を洪水調整用に整備したが、工費が5億円かかった。水田貯留で今8000立米貯留できるが、実際にかかった費用は1億円もかかっていない。市民のご協力をいただきながら進めていきたい。(神谷)
- ・農地の所有者にとって水田貯留によるプラス面は特にないということか。(近藤)
 - ▶ 水害が少なくなるだけで、今のところはない。(神谷)
- ・近隣の市町で同じような事業を実施しているところはあるのか。(内田)
 - ▶ 豊田市も実績はあまりない。小牧市は平成20年頃にやっていたが、今は拡大していないようだ。(神谷)
- ・事業を実施した箇所での効果やその下流での効果、またはその両方を調査できるとよい。(鷺見)

●矢作川流域圏年表について

- ・アーサー化がいつぐらいから問題視されてきたのか気になる。(近藤)
- ・部会メンバーにキーワードを挙げていただき、それがどの時期に当てはまるのかについては、WGの中で話し合い、年表を完成する流れがよい。(鷺見)
- ・樹林化が始まったのは高水敷を作ってからだ。航空写真などがあれば時期がわかるはずだ。(高橋)
- ・上流部の高水敷は平成2年くらいからできている。砂利採取を禁止したあたりから樹林化が進んだ。(小澤)
- ・1950年より前の古い明治用水頭首工の完成や発電用のダム completionなども年表に含めてほしい。(内田)
- ・流域圏懇談会で議論してきた内容にかかわるイベントやその前提条件となる基本情報は記載すべき。(鷺見)

今後の予定

■第52回川部会WG

日時：令和元年10月15日(火) 14:00~16:30 場所：豊田市職員会館2階第一会議室(岩本川)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。





発行日：令和元年 11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第52回川部会WGを開催しました！

今回のWGでは、豊田市の岩本川で現地視察を行い、豊田市矢作川研究所の山本大輔研究員に「市民主体による小さな自然再生」の活動について説明をしていただきました。また、国土交通省が取り組む効率的・効果的な河川ごみの対策に関する手引きの作成に関して、意見交換を行いました。

日時：令和元年 10月 15日（火） 14:00～17:00

会議場所：豊田市職員会館 第一会議室

参加者：26名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 岩本川における市民主体の小さな自然再生について

◆市民主体の小さな自然再生に関して [話題提供者：豊田市矢作川研究所 山本大輔研究員]
豊田市にある岩本川では5年前から豊田市の河川課と矢作川研究所、そして地域住民が協力して「市民主体による小さな自然再生」に取り組んできました。これは、行政が浚渫（河川の堆積土砂の除去）した川に地域住民が入り整備を行うことで、良い川を守り続けていく活動です。行政と地域住民の協議や計画、活動は以下のように進んできました。

- ①地域住民と行政が一緒になって話し合い、昔の川の状況を共有した。
- ②親子で川に遊びに来てもらい、浚渫場所と何もしていない川の様子を体験していただいた。
- ③地域住民が主体となって岩本川の未来希望図を描いた。また住民と行政の役割を確認した。
- ④未来希望図をベースに川づくりに挑戦した。また、地元の有志が岩本川創遊会を結成した。

（岩本川創遊会の活動は、流域圏担い手づくり事例集Ⅱ P36に掲載）

流域圏担い手づくり事例集Ⅱ QRコード⇒



【主な川づくり・川利用の内容】

- ・地元住民による草刈り
 - ・大きな石を使った水制工（3基）設置
 - ・落差工の下に石組みの設置
 - ・近くの小学校が学習場として活用（川の生きもの採集、水切り・ザリガニ釣り体験、数珠玉集め、学芸会の開催など）
- このように、地域住民が実際に川へ入ることにより、川への関心を高めてもらうことで活動が継続しています。

2. 河川ごみ対策に関する意見交換

国土交通省が取り組んでいる河川ごみ対策検討業務について、公益財団法人河川財団と株式会社日水コンより業務内容の説明をしていただき、矢作川水系における河川ごみに関する情報共有を行いました。

◆河川ごみ対策の動き

河川ごみは河川の自然環境だけでなく、河川管理施設の維持・保全にも大きな影響を与えるため、河川管理者にとって重要な課題です。また、マイクロプラスチックに代表される海洋ごみや河川ごみの大きな原因は、流域で発生した陸ごみです。このため、国土交通省では、河川管理者として実施可能な方策をまとめた「河川ごみ対策の手引き（仮称）」の策定にむけた検討をしています。

◆矢作川水系における散乱ごみの情報共有

河川ごみの中で、矢作川流域から洪水や風により運ばれた生活ごみ・ペットボトルや河川利用者が残置したバーベキューごみ等の「散乱ごみ」が多いと考えられる場所・区間の情報を地図上に付箋で貼り出し、可視化を行いました。この情報をもとに、「散乱ごみマップ」を試行的に作る方針が検討される予定です。矢作川流域圏懇談会は今後も継続的に協力していきます。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●岩本川における市民主体の小さな自然再生について

- ・どのくらいの頻度で草刈りをしているのか。また草の繁茂により護岸の端から落ちた人はいるか。(山本孝)
 - ▶ 草刈りは夏場や小学校の学習前、地域の環境美化活動時に行っている。護岸からの落下は聞いていない。しかし多くの危険があるため、子どもたちには川の楽しさと危険性の両面を伝えていきたい。(山本大)
- ・下流に落差工があるが、魚道などを作ってはどうか。(高橋)
 - ▶ 整備箇所ではブラックバスやブルーギルが見られ、去年はアユも確認された。下流から登ってきている可能性があり、高さはある程度クリアできていると思う。これからやりたいことは多くある。(山本大)
- ・護岸に手を入れず、植物や水生生物にとって重要な川底及び水辺の改修を主として行っている点は、他の河川の多自然川づくりと異なり、非常に興味深い。地域住民と議論して取り組んでいることも素晴らしい。(近藤)
- ・地域住民の草刈りに対して、河川管理者から補助金や助成金を出しているのか。(川瀬)
 - ▶ 河川管理者からは出していないが、岩本川創遊会が豊田市からもらっている補助金は多少ある。(山本大)
- ・昔は洗剤や農薬が流れていたと思うが、今の水質はきれいになっているのか。(高橋)
 - ▶ 水質は一回検査したが、川での遊びに問題ない数値であった。(山本大)
- ・流れがとても良いが、下地を作るときは滞筋を人工的に作ったりしたのか。(川瀬)
 - ▶ ある程度流路の変化は予想していたが、手は加えず自然のままにできた。(山本大)
- ・魚は何種類くらいいるのか。(光岡)
 - ▶ 7種類くらい確認しており、浚渫する前から変化はない。ドジョウとシマドジョウ、ホトケドジョウの3種が一度に獲れる豊田市内でも珍しい場所である。(山本大)
- ・水面は平均でどの程度下げたのか。(鷲見) ・落差工はもともと埋まっていたのか。(山本孝)
 - ▶ 土はもともと護岸の真ん中くらいまでであったが1mくらい下げた。落差工はほぼ埋まっていた。(山本大)
- ・ジュズダムを川にあえて残し、創遊会の会長さんが子どもたちに数珠玉での遊び方を教えていた。去年は流し難を乗せる舟を子どもが自分で考えて作り、改良を重ねて流した。新たな伝説が生まれたと思う。(吉橋)
- ・子どもが川に入ることによって自然に環境が維持されると良い。また、瀬淵は自然にできたものか。(鷲見)
 - ▶ 自然にできた形である。狙ってやりたい部分もあるが、人が置けるような石は流されてしまう。(山本大)
 - ▶ 岩本川は河川工学においてミニチュアの教科書のような出来である。実験水路のようで素晴らしい。小さい出水で土砂も流れており、小さい川における土砂のはけ方の議論の材料となる。(鷲見)
- ・岩本川をモデルとした他の河川での事例はないのか。あるのなら、お互いに連携をとっているのか。(橋本)
 - ▶ まだ広がっていないが、豊田市の広報を通じて、来年度から取り組む河川を公募している。(山本大)
 - ▶ 大阪で魚道を作るなど小さな自然再生は広がっており、岩本川は先進事例として認知されている。(近藤)
- ・岩本川は比較的規模が小さい河川であり、地域の人目に触れることが多いため、活動も行いやすい。(光岡)
 - ▶ 日本によくある規模・環境の河川であり、さらに発信を行えば、全国に広がるきっかけとなる。(内田)
- ・草刈りに対する意識は文化的な地域性があると思う。矢作川研究所で整理したら面白いのではないか。(鷲見)
 - ▶ 地域性をまとめることで、地域の良い面を発信できれば、地域の方にとっても誇りになる。(山本大)

●河川ごみ対策に関する意見交換

- ・懇談会全体で河川ごみ情報を聞いたほうが良い。川部会メンバーの野田さんや地域の巡視員さんへの聞き取りもすべき。過去に愛知県でごみの密度を調査しており、一般社団法人 JEAN に情報は渡している。(近藤)
- ・出水時は中部電力管轄のダムにごみはかなり流れてくるが、ごみの発生源は不明である。(橋本)
- ・水流や風によりごみが集まりやすい箇所は人的要因よりも環境要因が影響する。要因の仕分けが必要。(鷲見)
- ・河川ごみは海に行くため、海の方は河川管理者を悪者にするが、河川管理者も被害者である。河川管理者としてできることは、ごみを出さないよう呼びかけることである。市民と議論する場が必要だ。(吉野)
- ・最終的にはポスターで注意するだけではなくて、ごみを拾うシステムを考えることにつながると良い。(高橋)
 - ▶ 河川ごみの発生源や集まり方の分類を行うと、ごみの回収システムの構築に役立つかもしれない。(鷲見)

今後の予定

■川部会まとめの会

日時：令和元年 12月 17日 (火) 14:00~16:30 場所：豊田市



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 川部会編 vol. 4



発行日：令和2年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第11回川部会まとめの会を開催しました！

川部会まとめの会では、今年度の活動をふりかえり、次年度に向けて取り組みたい内容について話し合いを行いました。また、市民部会が主導し、矢作川を巡るバスツアーの開催を来年度に予定しています。そのバスツアーで他の地域部会に紹介したい事柄や場所について、川部会の意見をまとめました。



日時：令和元年12月17日（火）14:00～17:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室

参加者：15名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 今年度の活動のふりかえりと次年度の目標について



◆矢作川流域圏年表の作成

今年度は矢作川流域のこれまでの活動をふりかえり、矢作川流域圏年表の作成を進めてきました。まとめの会では、現段階の案を確認し、川部会メンバーが必要と考える追加及び変更項目の検討を行いました。この中で矢作川研究所へのヒアリングが求められ、12月18日にヒアリングを実施しました。

【矢作川研究所におけるヒアリング結果】

- ・魚類の外来種はアメリカナズが問題となっており、2005年に初確認され、当初は増加傾向にあったが、近年はあまり問題となっていない。
- ・ブラックバスやブルーギルは様々な場所で確認されるが、初確認など詳細な記録はない。
- ・カワヒバリガイが2004年に確認され、2005年に急増した。2006年に激減して以降、小康状態である。
- ・ネコギギは減少しているが、詳細な記録はない。豊田市史の自然編に近年の確認状況がある。
- ・オオカナダモは1994年頃に確認され始め、2010年頃に大繁茂した。
- ・河川の形の変化については、矢作ダムができて約20年後に豊田市周辺で5m程度の河床低下が生じたことが一番強い印象である。参考文献としては環境漁協宣言があげられる。
- ・河床のアーマー化は1980～90年代に認識され始めた。

◆今年度の活動状況のふりかえりと次年度の目標について

今年度は中部電力の方や関係行政機関の参加が多くなり、積極的な意見交換を行いました。また、多自然川づくりや市民による小さな自然再生を実施した支川に赴き、支川モデル、地域連携モデルの横断的な取り組みについて、情報共有を行いました。次年度の目標としては、土砂や生物など様々な視点から川部会メンバーが考える「川の望ましい姿」について話し合い、地図上にマッピングをしたいと考えています。



2. 他部会に紹介したい事柄・場所について



市民部会の提案で話し合いが進んでいる矢作川を巡るバスツアーについて、川部会メンバーが他部会に紹介したい事柄・場所を選定しました。

第一候補：安永川と明治用水頭首工（安永川トンネル工事と明治用水頭首工の状況）

第二候補：矢作ダム（土砂問題について）

第三候補：家下川（支川モデルの取り組み紹介）

その他：豊田大橋周辺、乙川、越戸ダム下流部 など

これらの意見を元に、市民部会でバスツアーの内容検討を行う予定です。



3. 話題提供：22世紀奈佐の浜プロジェクトについて



愛知・川の会の近藤氏から、三重県鳥羽市答志島の奈佐の浜に集まる漂着ごみへの取り組みについて、話題提供をしていただきました。「いい川」・「いい川づくり」ワークショップでは若者が活躍しており、奈佐の浜プロジェクトの情報発信をしています。このワークショップは、2020年夏に中部地域で開催する予定となっています。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度の活動のふりかえりと次年度の目標について

【矢作川流域圏年表について】

- ・アユの不漁の問題は、1990年頃に顕著になり、矢作川漁協が認識し始めたのはそれ以前である。(山本)
 - ▶ 愛知県は1991年に古岸水辺公園を作り、アーマー化したアユの漁場の河床を耕耘した。そのため、アユの不漁は1991年以前からあった。矢作の環境漁協宣言に書いてあるはずだ。(近藤)
 - ▶ 1980年代頃からアユが釣れなくなり、硬くなった川底の耕耘について議論が行われ始めた。(内田)
- ・明治用水の旧頭首工ができた時期を追加すべきだ。旧頭首工に魚道を作る運動が漁協の結成の要因。(内田)
 - ▶ 旧頭首工は1909年に完成した。最初は簡易な石造りの堰堤であった。(鷺見)
- ・オオカナダモは2005年頃に問題となり始めた。1994年ごろは「繁茂」という表現でよい。(内田)
- ・環境問題については、漁協と研究者の両方の視点に分けられるとよい。(近藤)
 - ▶ カワヒバリガイは2004年に初確認、2006年に大発生した。その後大量死して減少した。(内田)
 - ▶ 一番新しい問題は2010年代の苔植物の繁茂である。漁協の有志がゴム手袋で川底の石を磨いた。(内田)
- ・河床のアーマー化は1972年以降の問題である。(山本)
 - ▶ 国交省の河床材料調査で粗粒化の傾向が出てきたのが1972年頃である。(内田)
- ・下流部の水量がわかっているならば書いてほしい。河川敷の工事後に樹林化が始まった気がする。(高橋)
- ・2007年ごろに豊田市の集中下水工事が始まった。上水道の完成後は下流の水質が変わったのでは。(光岡)
 - ▶ 豊田市に下水処理場完成後、他の下水処理場が運用停止し、広域下水道に切り替えた。(内田)
 - ▶ 2008年に豊田市の終末処理場は役割を終え、単独の下水道は流域下水道に接続した。(鷺見)
- ・環境問題として、矢作川で魚類の外来種問題は発生していないのか。(橋本)
 - ▶ 本川ではアメリカナマズが問題となっている。加茂川や古川などでは2000年頃からブラックバスやブルーギルが増加した。これらは豊田市史の自然編にまとめられている。(光岡)
 - ▶ アメリカナマズは7~8年前に大きく騒がれていた。(内田)
 - ▶ 碧南海浜水族館や矢作川研究所に外来種やネコギギについてヒアリングしたほうが良い。(近藤)
- ・川の形や土砂に関する項目をまとめたい。それに関係する樹林化や伐採も加えるとなおよい。(鷺見)
 - ▶ 河道へのインパクトや形状変更については主要な構造物に関するイベントをまとめるのがよい。(近藤)

【今年度の活動状況のふりかえりと次年度の目標について】

- ・土砂管理に関する取組みとしては、小渋ダムへの見学があてはまる。(鷺見)
- ・関係行政機関の参加として、豊田市や安城市の方々に多く参加いただけた。(内田)
- ・以前からの課題であるが、川の理想像に関する話し合いができていない。理想像をマッピングしたい。(鷺見)
 - ▶ 鳥が棲める環境、特に砂地が矢作川から減少している。生物についての話をもっとしたい。(高橋)
- ・矢作川下流部で行われている自然再生検討会などの活動状況が共有できていない。(鷺見)
- ・流域の各市が作成したプランは作成してから10年くらい経つが、その後どうなったか知りたい。(光岡)
- ・国道一号線の橋を作ったことで川の水の流れが変わり、矢作橋付近の砂浜がなくなった。一部砂浜が残っているが、そこに降りる階段がない。そのため、矢作中学校の「砂の造形」の活動場所が変更となった。(伊奈)

●他部会に紹介したい事柄・場所について

- ・河川空間の変化による生物の生息状況が変化している。過去に見た場所を改めて見返すのもよい。(近藤)
 - ▶ 自然による河川空間の変化もあるが、人為的な改変による河川空間の変化が見える場所はあるか。(光岡)
 - ▶ 豊田大橋周辺では、矢作川森林塾による河畔林の整備がある。(近藤)
 - ▶ それにより豊田スタジアムのレストランから矢作川の水が見えるようになった。その対岸では、ラグビーワールドカップにあわせて近自然河川工法も成功したが、川部会では議論できていない。(内田)
- ・今工事が進んでいる安永川も見たい。(高橋)
 - ▶ この10年で一番大きな変化は、愛知県の矢作古川の分派堰と安永川の大トンネルの工事である。(近藤)

今後の予定

■第9回全体会議

日時：令和2年2月25日(火) 14:00~16:30 場所：愛知県西三河総合庁舎



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R01 海部会編

vol. 1



発行日：令和元年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第40回海部会WGを開催しました！

8月7日（水）に第40回海部会WGを開催しました。

今年度初めてのWGでは、今年のアサリの生息状況について、東幡豆漁業組合の石川組合長、吉田漁業組合の石川組合長から話題提供をいただいたほか、愛知県が実施している近年の研究成果について情報共有を行いました

日時：R01年8月7日（水） 13:30～16:00

場所：西尾市役所会議棟 第4会議室

参加人数：22名（事務局を含む）



◆主な活動内容

1. 今年の三河湾におけるアサリの生息状況と海的环境について



【東幡豆漁業協同組合 石川金男組合長からの話題提供】

- 今年の春先はアサリの生息状況が少し回復してきているようにみえた。島のほうでは天然のワカメが獲れるようになっていた。
- 少し例年と異なっていたこととしてアサリは砂場に少なく、岩場に多かったことがあげられる。
- アサリをはじめ干潟の生き物が回復傾向にあったのは、昨年の秋頃から実施されている流域下水道の管理運転の効果と思っている。
- また、干潟ではバカガイとイボキサゴが大量に生息する状況もみられたが、8月5日に海に行くと、これらの貝がほぼ全滅していた。
- この夏を乗り越えるのは難しいと思っていたが、これは暑さに弱ってなくなったものではないと思っている。なにかプランクトンが発生していたのではないかと知っている。

【吉田漁業協同組合 石川甚右衛門組合長からの話題提供】

- 三河湾と渥美湾では漁獲状況が異なり、東のほうでは砂場はよくないが、岩場に多く、潮干狩りも問題ない状況である。
- 渥美湾の栄養塩状態ではアサリの生息環境に良好なレベルにある。
- 知多湾にいたっては、11月以降、肥満度、クロロフィル、プランクトンとも生残限界を下回る状況である。10月に見ていただいたアサリは11月以降、大きく減耗した。
- その減耗のあと調査を続けていたが、2//20までに生息していた3/20にはアサリが全くなくなっていた。
- この理由を専門家に聞いたところ、今の肥満度で春の産卵の準備をしていたが、プランクトンがないから体力的に衰弱して、死んでしまったとのことである。
- 今年の漁獲主体はバカガイであったが、通常ならば1日の操業で約20kgは漁獲できるが、今年は1日2kg程度しか漁獲できない。
- 吉田の地先でもマキガイが大量に生息しているのは、東と同じ傾向であった。
- ノリをみると、吉田の地先では管理運転の効果で生産量が昨年よりも若干増加した。沖合の漁場ではあまり効果が見られなかった。水温上昇の影響と栄養塩切れの影響で漁期が短くなったのが反映された結果である。
- ノリ養殖場の水質調査結果をみると、硝酸態窒素で100をわると、かなり程度の単価になる。リンでは10以下が栄養塩の限界状況であり、下水道からの増量放流をしても10に達しない漁場もあった。
- プランクトンも11月に入ると大幅に減少している。2月になるとアサリの餌となるプランクトンはほとんどいない。
- 下水道の管理運転によって、漁業が継続できる最低レベルの環境を維持することができているが、現状として海的环境はかなり危機的な状況にあることに変わりはない。



【愛知県水産試験場漁場環境研究部 蒲原さんからの話題提供】

- ここ近年のアサリの水揚げ量は最盛期の1/10程度であり、ノリについても栄養塩の減少によってノリの色落ちや漁獲量が激減している。
- 干潟の造成や稚貝の放流も実施してきたが、アサリの漁獲量が大幅に減少してきた。
- 知多湾の栄養塩の推移をみると、アサリが減少する前に窒素、リンともピークの山が大きかったのが、アサリの減少がみられた以降は、ピークの山が小さくなっている。また、三河湾の栄養塩分布をみると豊川や矢作川の河口のみであり、河口以外では湾全体で少ない傾向となっている。
- 愛知県では下水道浄化センターの管理運転をH29は11月～3月 H30は10月～3月まで通常の2～4倍程度のリンを放流しており、矢作川の放流口付近で測定したところ、試験前の時期よりも試験後のほうが、割合的には平均的に増加している。
- 矢作川から流れてくるリン総量と矢作川浄化センターから放出されるリン総量を比較すると、冬季になると浄化センターのほうが多い。
- 水産用水基準でみると、アサリが大量に漁獲されていた時期はⅢ種に該当し、20年前まではその状態であったが、最近はⅠ種レベルとなっている。
- アサリの密度と肥満度に関する調査結果をみると、肥満度10～12が斃死にいたるラインと言われており、肥満度10を低下すると斃死する確率が高くなる。



2. 話し合い（・意見 回答）

- ・ 10月から11月にアサリの肥満度が低下するのは、この時期のプランクトン量が不足するという認識でよいか？この時期に栄養塩の管理放流をもっと実施したほうが良いという理解でよいか？（重徳）
 - そのとおりである。（蒲原）
- ・ 放流口のリンの濃度について、一時、大きく低下するのは何か理由があるか？ 9月から11月に多くのプランクトンを食べることでエネルギーを蓄えることでアサリは生残することが可能となるという理解でよいか？（鈴木）
 - 成熟、産卵に入るとアサリにストレスがかかり、その時期に餌が少ないと最も影響が大きい。リンの濃度の減少について、凝固剤の影響ではないかと意見があるが、推測である。（蒲原）
- ・ 今、干潟にカニが少ないのは、植物プランクトンの減少が影響しているのか？（高橋）
 - 今の干潟の状態は、カニやゴカイが少なく、生物による耕し効果がなく、干潟の上下の栄養素の循環がうまくいっていない。これは干潟がきれいになりすぎて、干潟に生息する生き物が少なくなっていることが影響している。干潟に鳥が少ないのも、餌となるゴカイなどの生物が少ないためであり、同じことが言える。（鈴木）
- ・ 豊川河口のケイ酸濃度の分布結果をみると、六条干潟では非常に高い値を示しているのは？（井上）
 - 河川の供給が多いことが影響しているといえる。（蒲原）
- ・ アサリの活力を回復する要因として摂餌が大切であり、活力が低下する要因として代謝、運動、成熟、産卵などがあるが、岩礁帯のアサリが生残しているのは、砂場よりも動き回ることができないというのが影響している。アサリのエネルギーロスが重要な問題であり、ダムや砂など粒径の大きな礫などをまくというのも一つの手段である。今の国の施策は、活動エネルギーのロスが重要視されていたが、餌料対策を全く実施してこなかった。両方の対策を実施しないと効果は現れないと思う。（鈴木）



3. 海部会の9年間のまとめについて（年表作成）

- ・ 海の世界は、感心の先がかわってきた。ここ10年間で海を取り巻く環境が大きく変わったのが見えるとよい。（青木）
- ・ 年表に記載する内容は、矢作川流域圏の指標となっている項目を記載するのがよい。CODだけでなく、窒素、リンの総量削減の話などを反映することが必要である。（鈴木）
- ・ 矢作川の歴史は、濁水から始まり、見た目のきれいさが視点であった。ここ最近のきれいな水という視点という話を、どのように見せるかが重要である。また、干潟・浅場の話も重要であるが、干潟の機能の話もどう表現できるかが重要である。この10年、愛知県で計画されていた流域下水道の整備が完了している。下水道の意義も含めて、伝えていくことが重要である。（近藤）
- ・ 会議発足当初、海の貧酸素くらいと話であり、今の局面を想像できなかった。今の状況を総括して示すことが必要である。（鈴木）

今後の流域圏懇談会の予定

- 海部会第41回WG（日時）令和元年9月18日（水） 午後 西尾市役所
内容：1）三河港湾事務所からの海の世界調査について 2）海に関する年表作成について

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 海部会編
vol. 2



発行日：令和元年10月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第41回海部会WGを開催しました！

9月18日（水）に第40回海部会WGを開催しました。

今回のWGでは、国土交通省三河港湾事務所が取り組まれている環境改善の取り組みとモニタリング調査について話題提供をいただいたほか、今年の夏の海の環境について吉田漁協の石川組合長から説明いただきました。

日時：R1年9月18日（水） 13:30～16:00

場所：西尾市役所会議棟 第3会議室

参加人数：20名（事務局を含む）



◆主な活動内容

1. 三河港湾事務所における海の環境改善の取り組み

○三河港湾事務所は昭和39年9月に東海地方を襲った伊勢湾台風によって被害を受けた衣浦港一帯を台風、高潮等による災害から守るために設置された事務所です。

○元々は工事事務所であったことから、主に防波堤や岸壁を作ったりして、船が着岸するというを手助けする設備を整備していました。それに伴って、船が入ってくるために海底の浚渫も実施しています。

○環境に関連する事業としては、平成10年～16年にかけてシーブルー事業という名称で中山水道航路の浚渫工事で発生した砂を活用して、干潟・浅場の造成を実施しています。

○事業の実施に伴い、平成26年頃まで造成した干潟や浅場のモニタリング調査を実施してきました。その結果、バカガイやガザミなど生物の生息場として機能していることが確認されました。

○また、大規模な埋め立て直後と比較すると低湿環境は改善された評価しています。

○現在、環境に関する取り組みとしては、伊仙湾海域検討会、三河湾部会を設置し、様々な議論を行いながら、伊勢湾再生のメニューを検討しています。

○その一つが、岸壁整備などで発生した土砂を活用した干潟造成であり、造成後は生物の生息状況や地形の安定状況についてモニタリング調査を実施しています。

【吉田漁業協同組合 石川甚右衛門組合長からの話題提供】

○毎年六条潟に稚貝を採取に行って、自分たちの漁場に放流し、育て、収穫するという養殖を行っており、今年の稚貝がどのように成長しているか、その8月に採集したものを今日は持ってきました。今のところは無事成長しているように見えますが、この2、3年は放流した貝が11月、12月になると消えるということが連続していました。

○その原因を追究するため愛知県の水産試験場に協力してもらい調査してきた結果、前回の発表でもありましたように、滋養不足が一番の原因ではないかというところまで結論付けることができます。

○今年の7月と8月の水質のグラフを用意しましたが、7月24日にトリガイ・バカガイが死んだと書いてありますけども、この時の貧酸素でトリガイはほとんど全滅しました。バカガイもここで死にましたね。アサリも若干死にました。

○8月30日、31日に、我々業況と愛知県水産試験場の方と一緒に資源調査を実施したところ。こんなに貝がない砂浜を見たのは初めてだなというくらい、何もいませんでした。

○他の地域の貝の状況としては、渥美湾の方は肥満度が知多湾と違い、漁獲が好調で特に福江湾ではかつてないほどの状況で出荷量も多いと聞いています。東幡豆では海岸線が山の石ころの漁場では、貝が生息していて、潮干狩りのお客さんに喜んでもらっているとのこと。佐久島の方も、この増量放流に伴う等の環境が良かったのではないかと、そんな部分的ないいところも現実あります。

○特に今は、事業関係によって環境整備していかないことには、回復は見込めないかなと、そんなふう感じています。





2. 話し合い（・意見 回答）

- 三河港湾事務所の説明資料をみて、三河湾のイメージがかなり整理できた。日本行政の姿からをみると、国交省をベースにした対策や評価、メンテナンスが一番わかりやすいように見える。三河湾の環境問題を国交省が主体で実施するのが安心できる（浅田）。
- 愛知県の三河湾というのは、かなりこう特徴がある。産業としても、港としても一、二番の港が三河の奥にあり、かつ、自然が多く残されているというところがポイントだと思う。すべて国土交通省で対応できるものではない。愛知県をはじめ関係機関と連携する場が大事だと思う。（河合）
- この三河湾を見て、これだけ人間のインパクトで右に振れたり左に振れたりした湾はないと思う。埋め立て、浚渫で、汚濁負荷量が上がリ、貧酸素・赤潮で大変な時期があり、今度は下水道を作って負荷を下げた。今度はエサ不足、アサリも獲れないと。そういう人間のインパクトがすごく効く海だからこそ、やはり国の機関である国交省も他省庁をあまり意識せずに、国交省の立場としてインフラ整備と海の環境保全を両立できるような動きをしていただきたい。（鈴木）
- 三河港湾事務所も海そのものの管理者ではない。港湾とかも海岸の管理者であって、海そのものの管理者がいないのが問題じゃないのかと思う。河川は水面も含めて河川管理者がいる。海っていても、海岸であって、あくまで海そのものの管理者がいないって、本当は国土管理としては問題ではないかと思う。（井上）
- 今いろいろな環境対策をやられているのは、海の管理者というよりむしろ、いわゆる保障行為としてやっている部分がきっと多い。管理者として、環境の改善というのができていないのが問題なのかなという面がある。もっと堂々と責務としてできるようにならないといけない時代が来るのではないかと思う。（河合）
- 今までの縦割りの中での海全体の環境をどこまでどうしたらいいのかという話、特に超長期的な話はできなくなっている。湾全体のあるべき姿を50年、100年先まで見込んで、手を打っていくのかってということが問われるのではないか。そのあたりは市民部会の役割であって大事なことだと思う。（鈴木）
- 石川組合長が言われた近年のアサリ減少は栄養塩不足が原因だということを地元の漁民、研究者、専門家、行政が同意というか、周知されているのかという疑問がある。また、仮に原因がわかっているなら、なぜ直ぐに対策ができないのかと思う。（浅田）
- 栄養不足の話は三河湾、伊勢湾だけの問題ではなくて、瀬戸内海ではかなり前から各県の水産研究所等が調査を実施し、データが積み上げられた結果、きれいな海から豊かな海へと表題が変えられてきた。また、政治的な動きもあって、窒素・リンの環境基準については下限値を設けることで調整が進められている。最近の学会の流れは、やはり栄養不足というのはベースにあるという認識はかなり強くなってきた。私の感じでは、ただそれに対して政治が、まだ動きが、足並みがびちっとそろえてない、つまり県レベルで国に対してもっと要望を上げる。また県議会の中でもそういう話題になるというようなインパクトがないと難しい。（鈴木）
- 研究者がはっきりわからないと言っている状態なら、なおさら現物の実験をやったデータで試せばよいのではないか。（浅田）
- それは漁業者も同じ思いである。こういう状況が5年間だけで起きたその理由に、栄養不足があることはほぼ間違いないのに、なぜ手が打てないのかと。特に西三河は、アサリ漁業で成り立っている。地元の愛知県が動かないと。もっと積極的に、特区でもいいからそこだけは1を2にするとか。管理運転も10月から3月まで赤潮出たら困るなどと言ってなくてやってみるとか。やはりそのくらい機動的にやらないと、時すでに遅しになってしまう。（鈴木）
- 今回下水の管理運転の効果調査をやっている中で、下水処理水の中でもケイ酸の濃度が非常に高い。しかも河川水よりも高い濃度で出てきている。やはり海域のプランクトンの生産力を上げるにはケイ酸が力になっていることがわかってきた。試してみてもわかることもあるので、実施することが大切だと思う。（蒲原）
- 内湾ではきれいで豊かな海が実現できると思っている。干潟や浅場が広がり、そこにアサリなどの浄化生物が多く生息すれば、陸域から色々なものが入ってきてきれいになる。見た目もかなりきれいになり、かつ生き物も豊かになる。今は陸域からの負荷を下げすぎて見た目はきれいだが、豊かさが無い。行政がもっと理解を深めて、政策の舵をきる必要がある。（鈴木）



今後の流域圏懇談会の予定

- 海部会第42回WG（日時）令和元年11月5日（火）午後
内容：1）矢作川浄化センターの視察 2）海に関する年表作成について

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijnet.or.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 海部会編 vol.3



発行日：令和元年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第42回海部会WGを開催しました！

11月5日（火）に第42回海部会WGを開催しました。

今回のWGでは、矢作川浄化センターにおいて、愛知県西三河建設事務所都市施設整備課より矢作川流域下水道の取り組み（放流水のリン濃度増加に係る試験運転）についてご報告いただいたほか、三河湾の栄養塩類の現状について、吉田漁業協同組合の石川組合長から西三のり研究会による水質調査の結果をご報告いただき、課題解決に向けた意見交換を行いました。

日時：R1年11月5日（火） 13:30～17:00

場所：矢作川浄化センター / 西尾市役所会議棟 第3会議室

参加人数：19名（事務局を含む）



◆主な活動内容

1. 矢作川浄化センターのしくみと放流水のリン濃度増加の試験運転について（西三河建設事務所都市施設整備課）

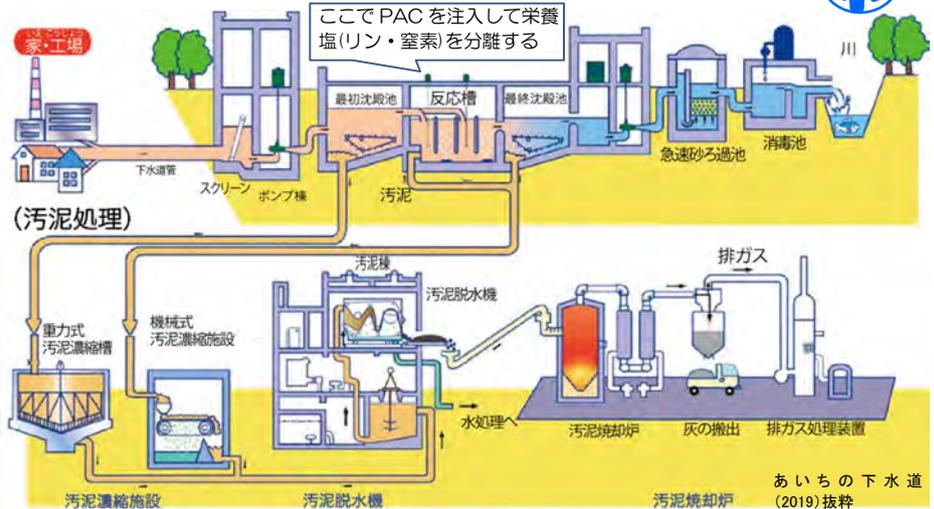
○矢作川流域下水道は、平成4年から愛知県内5番目の流域下水道として、供用を開始しました。愛知県西三河を流れる矢作川に位置する岡崎市、豊田市、安城市、西尾市、幸田町の4市1町に及び県内最大の処理面積を誇っています。

○管内の下水道普及率は約80%となっています（愛知県の下水道普及率は約70%）。

○反応槽では高分子凝集剤（PAC：ポリ塩化アルミニウム）を加え、汚泥を物理的に処理（攪拌、好気嫌気条件）することで、窒素とリンが分離します。

○現在、愛知県では矢作川浄化センターと豊川浄化センターの2箇所において、通常運転時の2倍の濃度でリンを放流し、海域の環境への影響を確認しています。現在のところ、放流水質の水質総量規制基準、海域の水質の双方において、基準をクリアしています。

○第8次総量削減基本方針に基づくリン濃度削減目標量は4.4t/日で、昨年の愛知県の測定値は4.7t/日であり、目標に達していません。



あいちの下水道 (2019)抜粋

2. のり漁場における近年の水質の変化について（吉田漁業協同組合 石川組合長）

○吉田漁協管内のアサリについては、昨年度は不漁とはいえ、皆さんに貝をみせることができました。現在は、漁場に貝らしきものがほとんど見当たらない状況です。そのため、アサリに関わる漁業者の中には、他業種のアルバイトで生計を立てている者が出ています。また、将来を悲観し、船まで処分する者もいるなど、漁業協同組合の存続すら危惧される状況です。

○西三河農林水産事務所水産課の指導を受けて西三のり研究会が、三河湾の8つの海域〔西尾味沢（本場9号、6区）、一色（実録、坂田）、衣崎（伍保、丙）、吉田、14号地〕を対象に、のりの栄養塩類とプランクトンの調査を行いました（10月～2月の週一回木曜日観測）。平成28年からのモニタリング調査の結果、三態窒素では300 $\mu\text{g/L}$ 、リン30 $\mu\text{g/L}$ の状況が続き、のりの生育には向かない環境であることがわかりました。また、プランクトンの数も、一時的な増加はみられるものの、恒常的な数量には至っていません。なお、のりの生育には水温の低下（20度以下）が欠かせませんが、近年は水温の低下が遅れており、生産時期そのものも短縮している状況です。

3. 流域圏懇談会10年のとりまとめについて（事務局）

○流域圏年表を提示し、作成の意義と経緯、前回指摘事項からの取り組みについて報告しました。

○次年度の勉強会の開催に関して、山・川部会に紹介したい事柄・場所についての意見交換を行いました。

○10年誌編集委員会の活動進捗状況（10年のふりかえり、キーパーソンヒアリング・座談会）の共有を行いました。





4. 話し合い（・意見▶回答）

●矢作川浄化センターにおける話し合い

- ・ 脱水機棟でも高分子凝集剤を用いているが、栄養塩類の濃度調整は、主にどこで行われているか。（鈴木）
 - ▶ 水処理施設の反応槽の末端で行っている。ここでは、凝集剤としてPAC(ポリ塩化アルミニウム)を用いて栄養塩の分離を行っている。脱水機棟で使用されている高分子凝集剤とは別物である。（西三河建設事務所都市施設整備課）
- ・ 凝集剤に藻類の必須元素である鉄ではなく、アルミニウムを用いるのはなぜか。（鈴木）
 - ▶ 鉄を用いないのは焼却灰の有効利用が難しくなることと金銭的な理由があげられる。アルミニウムは、鉄に比べて環境への負荷が高いと考えられるが、現在使用している量であれば、環境への負荷はないものと考えている。（西三河建設事務所都市施設整備課）
- ・ 第8次総量削減計画に示される目標値で、愛知県全体の削減量のうち、下水道が担う量はどれくらいか。（鈴木）
 - ▶ 愛知県全体の削減目標量は4,360.6kg/日であり、そのうち下水道は1,138.9kg/日（約26%）を占める。（愛知県環境局）
- ・ pHに関して、下水道の処理前より処理後に低下がみられるのは凝集剤の影響か。（蒲原）
 - ▶ 硝化の過程で生じる化学変化によるものであり、凝集剤によるものではない。（西三河建設事務所都市施設整備課）
- ・ 栄養塩を海に供給するため、瀬戸内海に面する兵庫県では、新たに環境基準の下限値も設けるなど、行政主体で舵をきり始めている。また、同じく瀬戸内海に面した岡山県では、のりやアサリを非常に重要な産業と位置づけ、海域へのリンや窒素の拡散状況のシミュレーションを実施している。のりやアサリが冬を越す冬季にどれくらいの栄養が供給されるかは、漁業者にとっては死活問題だ。是非、海からの視野で定量的な評価をお願いしたい。（鈴木）

●WGにおける話し合い

（のり漁場における近年の水質の変化について）

- ・ 出水があっても窒素とリンが出ないという近年の現象は、瀬戸内でも同様だ。山の状況はそれほど大きく変わっていないことから、やはり下水道が主な原因であると考えられる。下水道の幹線が整備されて、処理効率がこの20年で大きく上がっている。（鈴木）
 - ▶ 明治用水頭首工での窒素の量は、40年前の半分になっている。ここは、豊田市の下水道の分派より下流に立地するためであり、雨が降っても出ないというのは、そういうことかと思う。（蒲原）
- ・ 農地の施肥の方法も大きく変わった。以前の半分程度しか撒かなくなった。（青木）
- ・ 六条湯のアサリが8月7日に絶滅して、それ以前にこちらに放流したものが11月に1/10に減少した。そのため、衣崎の潮干狩り漁場1haに砂利を投入し、プランクトンの増加を見込んでいるが、かなり厳しい状況だ。（吉田漁協 石川）
 - ▶ 確かに、網をかぶせたり礫を撒いたりする対策によって、生産性は一時的に高まる。しかし、どんな対策をしても一過性であることは否めない。結局、栄養がない海でどんな対策を講じても意味がないのだと思う。（鈴木）
 - ▶ とにかく、海に海藻が育たないようではだめだ。きれいな砂漠では何もならない。（東幡豆漁協 石川）

（流域圏懇談会10年のとりまとめについて）

- ・ 若い人の参加を呼びかけられないか。未来に向けて、現状を確認し、課題解決の手法を議論してもらいたい。（東幡豆漁協 石川）
- ・ 海の現状を知ってもらうため、以前のアサリの漁場を写真で示しておいて、同じ場所を案内してはどうか。（高橋）
- ・ 編集委員会としては、10年のふりかえりとして、過去に参加していた方々も呼んで座談会もしたいと考えている。（高橋）



今後の流域圏懇談会の予定

- 第10回海部会「まとめの会」 日時：令和元年12月24日（火） 午後
内容：1）これまでの活動総括・ふりかえり 2）次年度の活動計画

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 海部会編 vol.4



発行日：令和2年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第11回海部会まとめの会を開催しました！

今回は、懇談会設立10年の活動成果を振り返るとともに、次年度の計画について話し合いました。また、話題提供として吉田漁協の石川組合長より、西三河ののり漁場栄養塩調査結果についてご報告いただいたほか、愛知・川の会の近藤事務局長より、22世紀奈佐の浜プロジェクトの近況をお話いただきました。

日時：令和元年12月24日（火） 15:00～17:00

場所：西尾市役所会議棟 第4会議室

参加人数：20名（事務局を含む）



◆主な活動内容

1 10年間の活動成果と次年度の目標について



◆矢作川流域圏年表（海部会編）の作成について

今年度、海部会では1950年（昭和25年）以降の矢作川流域について、海の視点から年表を作成してきました。その結果を共有するとともに、全体会議に向けた修正点等を検討しました。

◆10年間の活動の成果と課題について

事務局より、10年間に開催された42回の海部会や勉強会に関する一覧を提示し、改めてこれまでの活動成果や新たに生じた課題について、意見交換を行いました。

◆今年度の活動の振り返りと次年度の目標について

これまでの活動成果や課題をふまえ、次年度の目標を設定しました。



2 他部会に紹介したい事柄・場所について



市民部会が計画する次年度の勉強会の候補地について、海部会の意見をまとめました。その結果、海部会としては以下の希望を市民部会に伝えることになりました。

第一候補：アサリの漁獲量の現状を把握する（トンボロ干潟・吉田漁協）

第二候補：矢作川浄化センターを見学し、栄養塩類の放流状況を把握する

第三候補：鳥類をはじめとする海の生き物の現状を把握する



3 話題提供①：のり漁場における栄養塩調査結果について



吉田漁協の石川組合長から、愛知県下すべてののりのサンプル（実物と単価が記された用紙）をご提供・回覧いただき、栄養塩類がのりに与える影響についてご説明いただきました。のりは、乾燥状態で乾いてしまっても水に戻すと光合成を回復する強い生命力があります。一方で、栄養塩が少しでも不足すると、色と風味がすぐに低下し、売り物として流通させることができない弱い生き物です。矢作川浄化センターの栄養塩の試験放水の結果、品質面での向上がみられました。愛知県には今後とも継続した栄養塩の放流と水質試験をお願いしたいです。



4 話題提供②：22世紀奈佐の浜プロジェクトについて



愛知・川の会の近藤事務局長から、三河湾を含む伊勢湾流域で活動する「22世紀奈佐の浜プロジェクト」の実施状況についてご説明いただきました。奈佐の浜プロジェクトは、伊勢湾地域を発生源とする流下ごみに対して、その改善方法を検討するため、今から8年前に設立されたものです。当初は、流下ごみの現状を把握するため愛知岐阜三重のさまざまな場所をまわりました。2012年からの8年間で、16回の現地活動を行い、のべ4,000人にご参加いただいています。今年度は、長良川（100人）と奈佐の浜（200人）で実施しました。最近では、次世代の担い手を育成する場にしたいと考えていて、参加者200人のうち、半分以上を大学生以下が占めている状況です。また、マイクロプラスチック問題にも取り組んでいます。2020年は長良川国際会議場で全国大会（8月8日～9日）を実施します。是非ご参加ください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●10年間の活動成果と次年度の目標

【矢作川流域圏年表について】

- 干潟面積が増加しているが、中川水道由来の砂の敷設によるものか。干潟の定義と範囲が欲しい。(高橋)
 - 1998年に海域環境創造事業(シーブルー事業)が開始し、中山水道を浚渫し、その発生土によって干潟・浅場が形成された。その面積が約620haだ。グラフはその分をちょうど足したかのようだ。(石田)
 - 文献には干潟の定義が調査時期によって曖昧であり、単純に比較できないことが示されている。(事務局)
 - もともと干潟や浅場が広がっていた衣浦湾の工業地帯は、その後の造成で全部土砂に埋った。(高橋)
- 透明度とは、どここの場所の測定値か明記してほしい。また、のりの収穫量とアサリの漁獲量の推移には、六条潟からの稚貝の移動により効率的な生産が可能となり、のりの養殖からアサリ漁に切り替えた人々もいると考えられ、すべてが自然環境に由来するものではないと思う。(井上)
 - 一人の漁師がのりの養殖とアサリ漁を同時に行っていたケースが多い。(石田)
- 今回の議論については、年表に含めるべきか、注意書きを別紙に記載すべきかご助言をいただきたい。(事務局)
 - 解説を付けたほうが良いと思う。それから、海鳥の状況についても加えてはどうか。(石田)
 - シギの総数、カモの総数はグラフとして公表することは可能だ。(高橋)
- ヘルシープランには、水温などの物理的推移も掲載されていたと記憶している。追記してはどうか。(青木)
 - 調べて掲載したいと思う。(事務局)

【10年間の活動の成果と課題について】

- 豊かな海の再生で、「透き通った海≠豊かな海」と言い切るのは少し乱暴かと思う。(井上)
 - 確かに透き通って豊かな時もあれば、濁っていて豊かな時もある。何が何でも透き通った海にするという方向性は危険を伴う。(石田)
 - 「≠」の表現は意味が変わる恐れがあるので「透き通った海=豊かな海ではない」という表現に変更する。(事務局)
- 設立当時は透き通った海にしたいと邁進していた。10年が経ち、それが間違っていたと気づいたのも継続した懇談会の成果である。(青木)

【今年度の活動の振り返りと次年度の目標について】

- 以前、議論していた「ごみ」について、マイクロプラスチックなどの議論を検討する必要がある。(青木)
 - マイクロプラスチックは手で拾って除去できるものではない。水質の問題として新たに捉えるべきだ。(近藤)

話題提供：ケイ素について《伊勢・三河湾流域ネットワーク 世話人 井上祥一郎氏》

私はこの10年、一貫してケイ素の必要性について訴え続けてきました。アサリの餌としてプランクトンの中でもケイ藻が大事であることは、水産に携わる人々は知っていて、それは窒素・リン酸と同様に必須なものです。ケイ素は雨水中にはなく、山林からの湧水として流出します。栄養塩類とは出どころも循環形態も異なるため、なかなか調べられない物質です。しかし、ケイ素は生物にとって重要な物質であると考えているので、10年目として改めて周知したいと思います。

●他部会に紹介したい事柄・場所

- 干潟の砂の状況や鳥などの生物を見て、矢作川浄化センターをまわるというのが良いかも知れない。(青木)
- きれいになった海を船から見てもらってはどうか。三河港湾事務所に検討いただけないか。(青木)
 - 海からの視線は大切だと思う。ただ、船には定員(15名程度)があるため検討が必要だ。(田村)

●話題提供①：のり漁場における栄養塩調査結果

- 栄養塩類の試験放流は、継続して行うのか。(近藤)
 - 日間賀島、篠島などの養殖漁場では死活問題となっており、愛知県漁連として県にお願いしている。(石川)
- 栄養塩の試験放流は、のりの養殖にとって効果が出ているということではどうか。(青木)
 - 品質面で価値が上がっていると感じている。(石川)

●話題提供②：22世紀奈佐の浜プロジェクト

- 奈佐の浜プロジェクトには、矢作川流域圏懇談会として過去に3回ほど出席いただいている。確か、春に西の浜で、秋に奈佐の浜で行ったと思う。(近藤)
 - 西の浜での活動については、今でもよく覚えている。(青木)

今後の流域圏懇談会の予定

■第9回全体会議 (日時) 令和2年2月25日(火) 14:00~16:30

場所: 愛知県西三河総合庁舎 10階 大会議室

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 フィールドワーク vol.1



発行日：令和元年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆鳥川ホタル保存会の活動報告と現地視察を行いました！

フィールドワークの対象となった「鳥川ホタル保存会」は、平成27（2015）年度に作成した山村再生担い手づくり事例集Ⅲの中で取り上げた活動団体です。ホタル保存会は平成6年に設立され、ホタルの保護活動を行ってきました。平成24年に岡崎市のバックアップを受け、廃校した鳥川小学校の校舎を活用して、「岡崎市ホタル学校」を開校しました。今回の事例集交流会は、当初中流域の団体（川）に目を向けることをめざして岡崎市で行うことになりましたが、開催日がホタルの飛び交う時期と重なり、保存会の活動を体感できると考え、会の活動報告と意見交換、現地視察を行うことになりました。



日時：令和元年6月22日（土） 18:30～20:30
場所：岡崎市ホタル学校（岡崎市鳥川町）
参加者：25名（事務局を含む）

◆主な活動内容

1. 鳥川（とっかわ）ホタル保存会の活動報告



環境に対する意識変化や河川改修工事、農業の影響により絶滅状態にまで減少したホタルは、「鳥川ホタル保存会」の活動により毎年1000匹超が舞うほどに回復し、鳥川には3万人を超える見物客が来訪しています。



岡崎市ホタル学校



片岡会長による説明



意見交換



矢作川流域図（一部抜粋）

2. 延命水の現地視察



平成20年に環境省の平成の名水百選に「鳥川ホタルの里湧水群」が選定されました。フィールドワークでは、湧水群の一つである延命水を実際に味わいながら、市内外問わず多くの人々がこの水を利用している様子を視察しました。



板坂さん（岡崎市職員）による説明



延命水石碑



延命水 飲み場

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 フィールドワーク vol.2



発行日：令和元年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆根羽村の木づかいや古民家の活用について学びました！

根羽村では、平成30年に村役場を移転しました。新庁舎は、地元産材を豊富に利用したもので、各種窓口や議会場は、木のぬくもりが感じられ、落ち着くスペースとなっていました。つづいて、宿泊地となったグリーンハウス森沢では、木育アイテム（どこでもシリーズ）の一つである「どこでもサウナ」を経験しました。木の香りが漂うサウナの空間では、自然に童心にかえって話が弾みました。また、今回は根羽村の中心部にある古民家を改装した「まつや邸」を訪れました。驚くほど太くて古い柱や梁に圧倒される一方、お手洗いやお風呂は現代風にリフォームされており、古民家の活用を肌で感じることができました。



日時：令和元年7月19日（金）～20日（土）

場所：根羽村役場、グリーンハウス森沢、古民家「まつや邸」

参加者：11名（事務局を含む）

◆フィールドワークの記録

1. 地元産材を活用した根羽村役場の見学



根羽村役場の客間（大久保村長の説明）



地元産材を利用した村議会場



地元産材の薪を活用したストーブ

2. どこでもサウナ・古民家をリフォームした民宿「まつや邸」の見学



どこでもサウナの体験



古民家「まつや邸」の外観



「まつや邸」の広間

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 フィールドワーク vol.3



発行日：令和元年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆足助萩野自治区の地域振興と文化を学びました！

今回は足助萩野自治区の3箇所を見学しました。まず、萩野NPO「結の家」でトンカン木工塾の活動を体験しました。トンカン木工塾は、地元産材を利用して、大工道具の使い方を習得し、身近なものを制作します。同時に、棟梁から「道具」「伝統」「手しごと」「技」について学ぶとのこと。受講生の意欲に圧倒されました。続いて訪れた怒田沢町の諏訪神社では、「農村舞台寶榮座（ほうえいざ）」を見学しました。ここは、市内唯一の農村歌舞伎の舞台です。初めて見る廻り舞台の大きさに驚くとともに、歴史を感じました。さらに、はぎの森の健康診断報告会に参加しました。行政の支援がなくても、十分な成果が得られているようでした。



日時：令和元年10月26日（土） 9:00～17:00

対象：萩野NPO「結の家」トンカン木工塾、^{ほうえいざ}寶榮座、森の健康診断報告会
参加者：8名（事務局を含む）

◆フィールドワークの記録

1. 萩野NPO「結の家」トンカン木工塾の見学



萩野NPO「結の家」外観



トンカン木工塾への参加

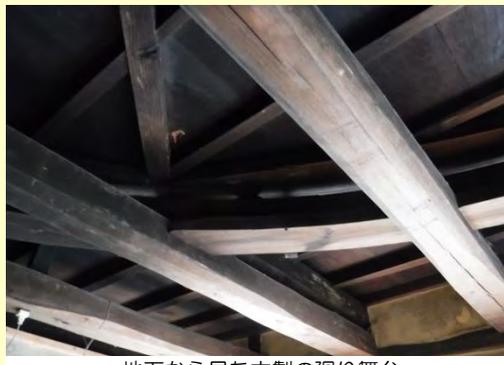


作品の見学（山本薫久氏の説明）

2. 農村舞台「^{ほうえいざ}寶榮座」、はぎの森の健康診断報告会



寶榮座の外観



地下から見た木製の廻り舞台



森の健康診断報告会の様子

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 フィールドワーク vol.4



発行日：令和元年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆恵那市の清流の国ぎふ森林・環境税の活用を学びました！

今回は恵那市大正村の明智城址歴史の森整備事業地を見学しました。整備の目的は、①明智城址の土塁の歴史的な資産の再発見、②100年先まで守り続けるために、明智城址を守ってきた森林を再整備することにあります。整備前の頂上付近は、50年以上（間伐遅れ）のヒノキ林があり、約10年前の強間伐のため、下床にササや灌木が生い茂っていた。そこで、清流の国ぎふ森林・環境税を①観光景観林整備事業、②里山林整備事業（遊歩道）、③清流の国ぎふ市町村提案事業（史跡説明看板）に充て、整備が始まりました。今回は、その進捗状況を確認することができました。



日時：令和元年12月7日（土） 9:00～11:00

場所：恵那市明智町明智城跡

参加者：14名（事務局を含む）

◆フィールドワークの記録

1. 事前学習～大正村の見学（古民家の再生・木づかい）



森林整備事業について事前学習



古い木造の町並みの見学



古民家の維持・間伐材の利用

2. 明智城址～遠山家菩提寺（大明山龍護寺）



既に整備された遊歩道の散策



山頂付近に設置された看板の確認



遠山家菩提寺見学の様子

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。

